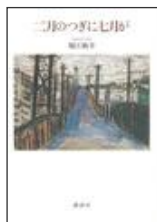


2026 年 1 月新聞書評に掲載された本



二月のつぎに七月が

堀江敏幸 著

講談社

いつも同じ時間に「いちば食堂」にあらわれるひと。テーブルに古い文庫本を広げては手帖になにか書きものをして…。青果市場の敷地にある食堂を舞台に、常連客や町の人々が織りなす群像劇。『群像』連載を加筆修正し単行本化。

産経新聞 2026/01/04

2025:11./ 730p
978-4-06-541385-2

¥4,730〔税込〕



9 784065 413852



50歳からの美食入門(中公新書ラクレ 852)

大木淳夫 著

中央公論新社

ひとり居酒屋の楽しみ、カウンター鮎の心得、会食の店選び…。食の本を作り、食べ歩くこと三十余年、誠実目線の取材で深めた知見を、中高年に向けて余すところなく紹介する。ニューオープンの取材メモが読める QR コード付き。

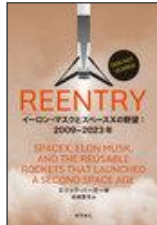
産経新聞 2026/01/04

2025:10./ 253p
978-4-12-150852-2

¥1,100〔税込〕



9 784121 508522



REENTRY～イーロン・マスクとスペース X の野望:2009-2023 年～

Eric Berger 著

化学同人

航空宇宙産業で確固たる地位を確立した、イーロン・マスク率いるスペース X。主力機にして世界で初めて商用化を達成した再使用ロケット「ファルコン 9」と、「ドラゴン」「クルードラゴン」宇宙船の開発を追う。

産経新聞 2026/01/04

2025:9./ 520p
978-4-7598-2411-7

¥3,520〔税込〕



9 784759 824117



OSECHI～Food for the New Year～

内田有美、アーサー・ビナード、満留邦子 著

福音館書店

黒豆、数の子、なます、昆布巻き、伊達巻き、松風焼き…。日本の伝統食であるおせち料理を紹介しながら、そこに込められた願いをリズミカルなことばで伝えます。英語で楽しむ、おせちの絵本。

産経新聞 2026/01/04

2025:10./ 34p
978-4-8340-8875-5

¥1,760〔税込〕



9 784834 088755

- ご注文の際には、タイトル・出版社名・価格のほか、ISBN も併せてお知らせください。
- 原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文、ご照会には弊社本・支店・営業部(課)までお申し付けください。
- 表示価格は 2026 年 1 月時点での税込み価格です。



官民軍インテリジェンス

山上 信吾／丸谷 元人／外薗 健一郎 著

ワニブックス

なぜ拉致問題は未解決のままなのか？なぜ日本人ビジネスマンが相次いで拘束されるのか？すべてにインテリジェンスの貧困が関わっている。第一線で活躍する官民軍の情報のプロ達が日本のインテリジェンスの現状を議論する。

産経新聞 2026/01/04

2025:8./ 350p
978-4-8470-7579-7

¥2,090〔税込〕



宮沢賢治きのこ文学集成

飯沢 耕太郎 編

宮沢 賢治 著

作品社

「さるのこしかけ」「土神と狐」など、“日本を代表するきのこ文学者”宮沢賢治の短歌、詩、小説、童話を集成。その魅力を説く「編者解説 きのこ文学者としての宮沢賢治」も掲載する。

産経新聞 2026/01/04

2025:10./ 253p
978-4-86793-117-2

¥2,970〔税込〕



「政軍関係」研究<2> 主要国の文民統制と日本の課題

国基研「政軍関係」研究会 編

浜谷 英博、堀 茂、黒澤 聖二 著

並木書房

日本の歴史と文化に根ざした「新しい政軍関係」の姿とは？「政軍関係」研究会における、主要諸外国の政軍関係の実態および日本の課題についての講演と、その解説となる座談会を収録する。

産経新聞 2026/01/04

2025:11./ 327p
978-4-89063-465-1

¥2,200〔税込〕



シオニズム～イスラエルと現代世界～(岩波新書 新赤版 2087)

鶴見 太郎 著

岩波書店

パレスチナにユダヤ人の民族的拠点をつくるという思想・運動である「シオニズム」。ホロコースト以前に東欧で生まれ、建国後はイスラエルを駆動し続ける思想の起源と変遷を、国際社会との関わりの中で描く。

産経新聞 2026/01/11

2025:11./ 302p
978-4-00-432087-6

¥1,232〔税込〕



パーフェクトワールド

田中 翠香 著

KADOKAWA

セーターの千の縫い目に千の風受けつつ春の街を歩めり 頑丈で扱いやすく替えがきく少年兵とカラシニコフは 2020 年第 66 回角川短歌賞受賞の著者による、奇想天外な第 1 歌集。

産経新聞 2026/01/11

2025:7./ 135p
978-4-04-884657-8

¥2,420〔税込〕





豊臣秀長〜「天下人の賢弟」の実像〜(中公新書 2877)

和田 裕弘 著

中央公論新社

兄秀吉を天下人に押し上げた功労者、豊臣秀長。忠実無比の補佐役というイメージだが、秀吉の「名代」であり、後継たり得る実力者でもあった。諸大名の信望厚く、豊臣政権を支えながらも志半ばで病没した五十余年の生涯を追う。

産経新聞 2026/01/11

2025:10./ 280p
978-4-12-102877-8

¥1,100〔税込〕



彷徨〜あなたが選ぶ赤い靴の冒険〜(アジア文芸ライブラリー)

インタン・パラマディタ 著

春秋社

逃げ出してみたい。そう願っていたとき、ジャカルタで英語教師をしている「あなた」は悪魔から赤い靴を譲り受け…。物語の展開は読者が決める、ゲームブック形式のフェミニズム文学。書き込み欄あり。

産経新聞 2026/01/11

2025:10./ 607p
978-4-393-45513-5

¥4,400〔税込〕



緑十字のエース

石田 夏穂 著

双葉社

元エリートの浜地は、中堅ゼネコンの契約社員となり、建設工事現場の安全衛生責任者を任される。浜地の教育担当となった松本は、度を越えた厳しさで安全指導をする男で…。『WEB 小説推理』掲載に加筆、訂正。

産経新聞 2026/01/11

2025:11./ 179p
978-4-575-24855-5

¥1,760〔税込〕



世界浴場見聞録

こばやし あやな 著

学芸出版社

タイの芳香豊かな蒸気浴、ロシア帝政期の階層社会が生んだ灼熱の公衆浴場、日本の下町銭湯…。まだ見ぬ入浴文化を探して 50 カ国を旅した、フィンランド在住のサウナ文化研究家によるエッセイ。

産経新聞 2026/01/11

2025:12./ 238p
978-4-7615-2958-1

¥2,420〔税込〕



報せはすべてよい〜阿川尚之自撰文集〜

阿川尚之 著

千倉書房

初恋の機関車、ハワイの雪景色、アメリカが開戦を決意した日…。法律家、外交官、教育者など、多彩な活躍で知られた米国憲法史研究者が、自らの来し方を振り返りながら、日米関係のあり方と変容を探るエッセイ集。

産経新聞 2026/01/11、朝日新聞 2026/01/24

2025:12./ 373p
978-4-8051-1361-5

¥3,960〔税込〕





テミスの不確かな法廷<2> 再審の証人

直島 翔 著

KADOKAWA

任官 8 年目の裁判官・安堂清春は、発達障害の特性に悩みながら、日々裁判に向き合っている。殺人の濡れ衣を着せられたと訴える男の再審裁判で、証人として出廷したのは、検察ナンバー 3 の地位にいる安堂の父で…。

2025:12./ 239p
978-4-04-116791-5

¥1,980〔税込〕



産経新聞 2026/01/18



検事の心得～元東京地検特捜部長の回想～

伊藤 鉄男 著

中央公論新社

そのとき、検察の内部で何が起きていたか。数々の重要事件に関わった元東京地検特捜部長が、約 36 年間の検事生活を辿りながら、検事の仕事や生活など、検察の実際の姿を紹介する。

2025:10./ 270p
978-4-12-005964-3

¥1,980〔税込〕



産経新聞 2026/01/18



棺桶まで歩こう(幻冬舎新書 ま-18-1)

萬田緑平 著

幻冬舎

2000 人以上を看取った「在宅」緩和ケア医が、「歩けるうちは、人は死なない」という考えのもと、満足できる人生の終え方を提唱。命の最後に何が本当に必要かを、現場から問い直す。

2025:11./ 222p
978-4-344-98793-7

¥1,034〔税込〕



産経新聞 2026/01/18



生活史の方法～人生を聞いて書く～(ちくま新書 1884)

岸政彦 著

筑摩書房

「ひとりの人間の、人生の語り」である生活史。沖縄で 25 年にわたり聞き取り調査をしてきた著者による、生活史の美しさ・おもしろさから、そのむずかしさ・暴力性まで、冊子にまとめて作品とするための手引き。

2025:11./ 302p
978-4-480-07713-4

¥1,155〔税込〕



産経新聞 2026/01/18



演劇と観光～近代娯楽文化の生態系と舞台芸術～

マーガレット・ウェリー 著

福村出版

演劇と観光はいかに結びつき、人々を日常から別世界へ誘うのか。歴史・社会・文化の諸相を通じて両者の交錯を解明し、現代における舞台と都市の新たな意味を問い直す。平田オリザによる付論も収録。

2025:10./ 232p
978-4-571-41084-0

¥3,190〔税込〕



産経新聞 2026/01/18



入門講義アニミズム～動物も川も人間も平等という知恵～(平凡社新書 1094)

奥野克巳 著

平凡社

動物やモノにも意思が宿るという、人類に通底するアニミズムの世界観。アイヌのクマ送りから、ニュージーランドの川の法人格、ジブリ、さらに AI まで、豊富な事例を横断しながら、分断と不平等の時代を救う世界観を深く語る。

産経新聞 2026/01/18

2025:11./ 211p
978-4-582-86094-8

¥1,100〔税込〕



戦後日本のインテリジェンスとグランド・ストラテジー～吉田ドクトリンから安倍ドクトリンへ～

ブラッド・ウィリアムズ 著

作品社

「吉田ドクトリン」と近年登場した「安倍ドクトリン」が戦後日本のインテリジェンスに及ぼした影響を、機密解除された CIA 資料や文献、広範なフィールドワークやインタビューをもとに、その歴史的過程を検証し明らかにする。

産経新聞 2026/01/18

2025:9./ 363p
978-4-86793-107-3

¥3,520〔税込〕



その針がさすのは

羽田 圭介 著

新潮社

僕ら夫婦は不妊治療をしながら中野で暮らしている。この街は戦前、満州と電信ケーブルで繋がっていたらしい。ふいに聞こえるようになった大陸からの声。僕は断絶した歴史と接続してしまったのか…。『新潮』掲載を単行本化。

産経新聞 2026/01/25

2025:11./ 154p
978-4-10-336113-8

¥1,925〔税込〕



中世トラベルガイド～ヨーロッパから世界の果てまで～

アンソニー・ベイル 著

河出書房新社

聖地から、アジアの大都市、アフリカの伝説の王国、地の果ての島々まで、西洋中世の人々の旅を、当時の旅行記やガイド本をもとに紹介する。お金事情、会話フレーズ集、人気のお土産などの情報も充実。

産経新聞 2026/01/25

2025:10./ 424p
978-4-309-22973-7

¥3,245〔税込〕



国際連合の誕生～戦後平和へのイギリスの構想と外交～(国際政治・日本外交叢書 22)

細谷 雄一 著

ミネルヴァ書房

国際連合はいかにして誕生したのか。一次史料を詳細に検討し、第二次世界大戦の裏側で行われていた、国際連合の誕生に至る一連の外交交渉の経緯と、関係者それぞれの思惑を描き出す。

産経新聞 2026/01/25

2025:10./ 376p
978-4-623-09933-7

¥4,400〔税込〕





すてきなあなたに～朝のミルクティー～

暮しの手帖編集部 編

暮しの手帖社

朝飲むミルクティーがおいしく入ると、一日がすてきに展開しそうな気がします-。
堀井和子、おーなり由子ら 22 名の執筆陣によるエッセイ集。『暮しの手帖』(2013 年～2024 年)連載より抜粋、加筆修正し単行本化。

産経新聞 2026/01/25

2025:11./ 220p
978-4-7660-0249-2

¥2,200〔税込〕



英米文学のわからない言葉

金原瑞人 著

左右社

アルコール、プディング、ターキッシュデライト、マントルピース、オリーブ色の肌…。英米文学に登場する“わかるようでわからない”おなじみのアイテムや表現を、さまざまな文学作品とともに、翻訳家・金原瑞人がひも解く。

産経新聞 2026/01/25

2025:12./ 239p
978-4-86528-505-5

¥2,200〔税込〕



ヴォーリズの足跡に魅せられて～かおりの宝庫を訪ねる～

芹野与幸 著

ヨベル

著名な建築家のみならずキリスト教伝道の担い手でもあった一柳米来留ことウィリアム・メレル・ヴォーリズ。その足跡を妻・一柳満喜子との絆を軸に多角的に照らし出す。近江兄弟社の広報誌『湖畔の声』連載を書籍化。

産経新聞 2026/01/25

2025:11./ 305p
978-4-911054-61-1

¥1,980〔税込〕



タブーを破った外交官～田中均回顧録～

田中 均、井上 正也 著

岩波書店

冷戦終結後の日本が直面した数々の外交案件に取り組んだ外交官はその時、何を考え、何をしたいと思ったのか。プロフェッショナルが果たすべき役割とは何か。元外交官・田中均がすべてを語り尽くしたオーラルヒストリー。

朝日新聞 2026/01/10

2025:10./ 384p
978-4-00-061719-2

¥3,190〔税込〕



「酔っぱらい」たちの日本近代～酒とアルコールの社会史～(角川新書 K-499)

右田 裕規 著

KADOKAWA

晩酌、宴会、接待…。日々の仕事と固く結びついてきた飲酒。「デキる奴ほど酒を飲む」は、いつ生まれ、なぜ消えゆくのか？ 気鋭の社会学者が、20 世紀の労働史を通じてその起源に迫る。

朝日新聞 2026/01/10

2025:12./ 211p
978-4-04-082529-8

¥1,034〔税込〕





介護未満の父に起きたこと(新潮新書 1098)

ジェーン・スー 著

新潮社

82歳の父が突然ひとり暮らしに。唯一の家族である娘は、あえてビジネスライクにサポート。日々体力と記憶力が衰えていく父のケアに奔走した著者が、「介護前夜」の5年間を綴る。『波』、WEB『考える人』連載を加筆修正。

朝日新聞 2026/01/10

2025:8./ 222p

978-4-10-611098-6

¥990〔税込〕



帝国と民族のあいだ〜パレスチナ/イスラエルの重層性〜

鶴見 太郎、今野 泰三 編

東京大学出版会

定期的に国際的な注目を集めてきたパレスチナ/イスラエル。「帝国」と「民族」のあいだで人びとが生きてきた軌跡を軸として見据えて、この地域の深層を描き出す。

朝日新聞 2026/01/10

2025:10./ 320p

978-4-13-021087-4

¥4,730〔税込〕



すべての美しい馬(ハヤカワ epi 文庫)

コーマック・マッカーシー 著

早川書房

朝日新聞 2026/01/10

2001:5./ 499p

978-4-15-120004-5

¥1,166〔税込〕



エピタフ〜幻の島、ユルリの光跡〜

岡田 敦 著

インプレス

根室半島沖に浮かぶユルリ島では、半世紀前に漁師が島を去り、残された家畜の馬が野性化し…。固有の自然を守るために上陸することが厳しく制限され、馬だけが暮らすこの島の風景を、関係者との対話とともに伝える。

朝日新聞 2026/01/10

2023:6./ 240p

978-4-295-01654-0

¥2,970〔税込〕



黒馬物語(光文社古典新訳文庫 KA シ 13-1)

アンナ・シューウェル 著

光文社

仲間たちと楽しく暮らしていたブラックビューティは、ときに人間たちに酷使される馬たちの姿に心を痛めていたが、彼にも都会の馬車馬としての過酷な運命が待っていて…。馬の視点から語られた動物文学の傑作。

朝日新聞 2026/01/10

2024:5./ 438p

978-4-334-10320-0

¥1,430〔税込〕





おでん学!(祥伝社新書 724)

紀文食品おでん研究班 著

祥伝社

豊富なデータや現地調査を交え、おでんに秘められた地域性と時代性を解き明かす。おでんクイズやおでんの日本史、プロに学ぶおでん作りのコツ、おでん種ものの図鑑なども収録。

朝日新聞 2026/01/10

2025:12./ 204p
978-4-396-11724-5

¥1,320〔税込〕



感覚史入門～なぜプラスチックを「清潔」に感じるのか～(平凡社新書 1096)

久野愛 著

平凡社

におい、手ざわり、デジタル機器の画面の明るさ…。資本主義と技術は五感を商品にし、日常の体験そのものを設計してきた。プラスチックなどの新素材による衛生観の更新から VR まで、身近な事例で「感じ方」の軌跡をたどる。

朝日新聞 2026/01/10

2025:12./ 237p
978-4-582-86096-2

¥1,210〔税込〕



東欧の体制転換と新自由主義～1989年以後のヨーロッパ～

フィリップ・テアー 著

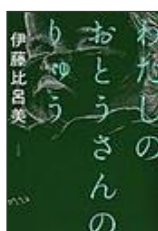
みすず書房

1989 年以後、東欧諸国における急激な自由化・規制緩和・民営化は何をもたらし、西ヨーロッパはいかに変わったか。30 余年の欧州現代史を総括し、変化の実相を紐解く。

朝日新聞 2026/01/10

2025:10./ 592p
978-4-622-09784-6

¥6,050〔税込〕



わたしのおとうさんのりゅう

伊藤比呂美 著

左右社

高度成長期に入りかけた頃の東京。板橋区の裏町の裏通りをさらに入ったところで、「私」は夢中で本を読んでいた。「エルマーのぼうけん」から始まる、児童文学、ことば、そして著者自身の記憶をたどる道行き。

朝日新聞 2026/01/10

2025:10./ 279p
978-4-86528-491-1

¥2,200〔税込〕



葛飾北斎の生涯と芸術意欲

磯崎 康彦 著

玲風書房

修業時代、浮絵の流行と「新板浮絵忠臣蔵」、読本の北斎と曲亭馬琴、「北斎漫画」の刊行と波及、北斎の信仰…。江戸中世期の研究家である著者が、世界的芸術家・葛飾北斎の生涯とその偉業を解説する。

朝日新聞 2026/01/10

2025:11./ 336p
978-4-947666-87-1

¥4,999〔税込〕





馬のころ〜人の相棒になれた理由〜(岩波科学ライブラリー 339)

瀧本 彩加 著

岩波書店

顔や音声で多彩な感情を表現し、相手の些細な表情や声色の変化も見逃さない馬。馬どうしはもとより、人とも絆を築けるのはなぜか。馬のコミュニケーション能力に焦点を当て、その新たな魅力を紹介する。

2025:11./ 158p
978-4-00-029739-4

¥1,760〔税込〕



朝日新聞 2026/01/10、朝日新聞 2026/01/17、毎日新聞 2026/01/24



プレイグラウンド

リチャード・パワーズ 著

新潮社

南太平洋に浮かぶ人口 100 人弱のマカテア島。外国企業による海洋都市建設の計画が持ち上がり、開発か環境保護かの決断を迫られることに…。シンギュラリティーを前に文学の可能性を映し出す、謎と驚異に満ちた物語。

2025:10./ 491p
978-4-10-505878-4

¥4,950〔税込〕



朝日新聞 2026/01/10、東京・中日新聞 2026/01/18



プラハの古本屋(中公文庫 ち 9-1)

千野 栄一 著

中央公論新社

本とビールと友情と…。戦後第 1 回目の交換留学生としてプラハに降り立ったときから 10 年間、古書を探さない週はなかったという言葉学者が、本と出逢う喜び、愛すべき店主たちとの交流をユーモラスに語ったエッセイ。

2025:8./ 293p
978-4-12-207693-8

¥1,155〔税込〕



朝日新聞 2026/01/17



ハウスメイド<2> 死を招く秘密(ハヤカワ・ミステリ文庫 HM 530-2)

フリーダ・マクファデン、高橋 知子 著

早川書房

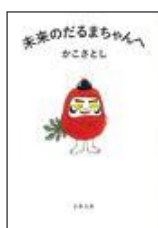
ギャリック家のハウスメイドのミリーは、雇い主のダグラスから、何があってもゲストルームには入ってはいけないと告げられる。そこでは病気の妻ウェンディが静養しているという。ある日、ミリーは血塗れのガウンを見つけ…。

2025:12./ 461p
978-4-15-186702-6

¥1,408〔税込〕



朝日新聞 2026/01/17



未来のだるまちゃんへ(文春文庫 か 72-1)

かこ さとし 著

文藝春秋

「からすのパンやさん」「だるまちゃんてんぐちゃん」をはじめ、数々の作品で知られる絵本作家のかこさとしが、迷い道の人生、絵本に込めた希望、尊敬してやまない子どもたちへの思いなどを綴る。

2016:12./ 269p
978-4-16-790758-7

¥726〔税込〕



朝日新聞 2026/01/17



死の絆～赤い博物館～(文春文庫 お 68-4)

大山誠一郎 著

文藝春秋

コミュ障でニコリともしない美貌の犯罪資料館館長・緋色冴子警視。部下の寺田聡と闇に包まれた事件の捜査に乗り出すが…。未解決事件に仕掛けられた前代未聞のトリックを見抜けるか? 『オール讀物』掲載を文庫化。

朝日新聞 2026/01/17

2025:12./ 262p
978-4-16-792455-3

¥858〔税込〕



対立(創元推理文庫 P 分署捜査班 M テ 19-5 [5])

マウリツィオ・デ・ジョバンニ、直良 和美 著

東京創元社

パン屋の店主が撃たれて死んだ。ロヤコーノ警部たちが捜査を始めようとする、過去の因縁からの口封じを確信する検察庁マフィア対策班が強引に介入してきた。P 分署とマフィア対策班、真っ向から対立する捜査の行方は…。

朝日新聞 2026/01/17

2025:12./ 376p
978-4-488-29608-7

¥1,540〔税込〕



あなたの見ている世界を、私も見てみたい～自閉スペクトラムな 26 人の物語～

ジョディ・ロジャーズ、木村 千里 著

東洋館出版社

自閉スペクトラムな人々への支援活動を 30 年以上つづけてきた著者は、彼ら一人ひとりとどうつながりを築いてきたか。さまざまなバックグラウンドをもつ、4 歳から 40 代までの 26 人の物語を紹介する。

朝日新聞 2026/01/17

2025:12./ 358p
978-4-491-06393-5

¥2,200〔税込〕



かこさとしと紙芝居～創作の原点～

かこさとし／鈴木万里 著

童心社

かこさとしの代表作ともいえる絵本「どろぼうがっこう」「おたまじゃくしの 101 ちゃん」などは、元はといえば紙芝居だった。かこさとしの創作の原点ともいえる紙芝居に関する仕事をふり返り、その創作の秘密を紐解く。

朝日新聞 2026/01/17

2021:8./ 166p
978-4-494-02072-0

¥2,420〔税込〕



砂川闘争とは何か～連帯の民衆史～

高原 太一 著

法政大学出版局

1950 年代、東京都の西部・北多摩地域で始まった、米軍立川基地の滑走路拡張計画に反対した抵抗運動「砂川闘争」。地域、支援者、連帯という視点からその歴史を描きなおし、砂川闘争の実相に迫る。

朝日新聞 2026/01/17

2025:10./ 580p
978-4-588-31624-1

¥4,950〔税込〕





石原吉郎の詩の構造～他者、言語、世界～

齊藤 毅 著

法政大学出版局

「他者」への呼びかけ、「世界」の現出、両者が顕れる場そのものとしての「言語」。シベリア強制収容所を生き延びた詩人・石原吉郎。難解で知られる詩人のテクストの「構造」に初めて全面的に焦点をあてて解きほぐす。

朝日新聞 2026/01/17

2025:11./ 382p
978-4-588-46028-9

¥4,180〔税込〕



流れることへの哲学～存在の花を訪ねて～

山内 志朗 著

慶應義塾大学出版会

「哲学とは徹頭徹尾、具体性の中で展開されるもの」とする中世哲学の研究者が、存在論、言語論、倫理学、中動態、時間論、実体論、聖霊論などをめぐって、西洋哲学で主題化されて来なかった<流れ>を問う哲学試論。

朝日新聞 2026/01/17

2025:10./ 264p
978-4-7664-3068-4

¥2,970〔税込〕



渦巻の芸術人類学～死と再生のスパイラル～

鶴岡 真弓 著

青土社

人類が死からの再生と吉祥を願い、土偶・聖書写本・アニメ等に刻み続けてきた「渦巻」。「生命循環」の象徴として、西洋・東洋の文明に見られる渦巻の造形・表象に秘められた、祈りと創造力の根源を探究する画期的考察。

朝日新聞 2026/01/17

2025:9./ 464p
978-4-7917-7597-2

¥4,840〔税込〕



「生保レディ」の現代史～保険大国の形成とジェンダー～

金井 郁、申 琪榮 著

名古屋大学出版会

日本の高度成長の基盤となった生命保険産業。その発展を最前線で支えた女性営業職に着目し、労働の実像を解明。外資系男性営業職もとらえたジェンダー分析により、保険大国への歩みに新たな光を当てる。

朝日新聞 2026/01/17

2025:11./ 352p
978-4-8158-1214-0

¥5,940〔税込〕



地球～その中をさぐろう～(福音館のかぐのほん)

加古里子 著

福音館書店

地球の中のようなすを地表から中心部にわたって描いた、「海」の姉妹作です。地球内部の巨大なエネルギーが地球を変えていく過程は実に見事で、その雄大さは目を見はるものがあります。

朝日新聞 2026/01/17

1975:1./ 49,5p
978-4-8340-0445-8

¥1,650〔税込〕





呪文の言語学～ルーマニアの魔女に耳をすませて～

角 悠介 著

作品社

ルーマニアには古い魔女文化がいまも残っているとされている。東欧在住 20 年の言語学者が、魔女大国とも呼ばれるこの地の民間伝承や実体験をひもとき、“呪文の正体”に迫る。「言語学者から魔女へのインタビュー」も収録。

朝日新聞 2026/01/17

2025:8./ 252p
978-4-86793-104-2

¥2,640〔税込〕



玉音放送を命にかえても～日本のいちばん長い日外伝～

上田 未生 著

岩波書店

太平洋戦争中、大本営発表をラジオで放送し続けた日本放送協会の報道責任者、柳澤恭雄。1945 年 8 月 15 日、反乱軍に占拠された放送局で彼の目に映ったものは。「運命の日」の真実に迫り、ジャーナリズムの在り方を問う。

朝日新聞 2026/01/24

2025:11./ 254p
978-4-00-061733-8

¥2,970〔税込〕



刀狩り～武器を封印した民衆～(岩波新書 新赤版 965)

藤木 久志 著

岩波書店

秀吉の刀狩りによって民衆は武装解除されたという「常識」は本当だろうか?秀吉からマッカーサーまで、刀狩りの実態を検証して、武装解除された「丸腰」の民衆像から、武器を封印する新たな日本民衆像への転換を提言する。

朝日新聞 2026/01/24

2005:8./ 254p
978-4-00-430965-9

¥1,166〔税込〕



羽柴秀吉とその一族～秀吉の出自から秀長の家族まで～(角川選書 677)

黒田 基樹 著

KADOKAWA

羽柴(豊臣)秀吉の父親はどのような職に就いていたのか。弟・秀長の妻子はどのような人物なのか。「秀吉政権」の構造と性格を把握するうえで不可欠な一族・親族の情報を徹底検証する。

朝日新聞 2026/01/24

2025:5./ 270p
978-4-04-703739-7

¥2,024〔税込〕



無機質な恋人たち

濱野ちひろ 著

講談社

人は「人以外」と愛し合うことはできるのか? セックスロボットが普及すると人々のセックス観はどう変わるのか? 「無機物とのセックス」を通して、近未来社会の「性と愛」を予見する。

朝日新聞 2026/01/24

2025:10./ 244p
978-4-06-521945-4

¥1,980〔税込〕





成瀬は都を駆け抜ける

宮島未奈 著

新潮社

達磨研究会なるサークル、簿記 YouTuber。京大生となった成瀬は新たな仲間たちと出会い、京都の街をひた走る。一方、東京の大学に進学した島崎のもとに、ある知らせが…。『小説新潮』掲載に書き下ろしを加え書籍化。

朝日新聞 2026/01/24

2025:12./ 231p
978-4-10-354953-6

¥1,870〔税込〕



会話の0.2秒を言語学する

水野 太貴 著

新潮社

会話中、返事をするまでの0.2秒にどんな駆け引きや奇跡が起きているのか。言語学の歴史を振り返りつつ、「食べログ」レビューからお笑いに日銀総裁の会見、人気漫画までを俎上に載せ、日常の言語学を解き明かす。

朝日新聞 2026/01/24

2025:8./ 236p
978-4-10-356431-7

¥1,760〔税込〕



人類学者が教える性の授業(ハヤカワ新書 053)

奥野克己 著

早川書房

同じ霊長類であるボノボとヒトのセックスはどう違うのか。同性愛やフェティシズムの起源はどこにあるのか。生物進化と比較文化の2つの視点から、人類の多様で特異な「性」を眺め、人間存在そのものについて再考する。

朝日新聞 2026/01/24

2025:12./ 254p
978-4-15-340053-5

¥1,320〔税込〕



秀吉の虚像と実像

井上 泰至 編

湯浅 佳子 著

笠間書院

豊臣秀吉について、古文書・古記録を使用して、現在、何がどこまで明らかになっているかを述べた実像編と、秀吉に関する歴史常識が、どのような軍記物語によっていかに形成されたのかを追究した虚像編を収録する。

朝日新聞 2026/01/24

2016:6./ 407p
978-4-305-70814-4

¥3,080〔税込〕



性的であるとはどのようなことか(光文社新書 1390)

難波 優輝 著

光文社

自治体のポスター、食品のCM、公園の裸婦像、医学書…。なぜ人は「何が性的か」ですれ違うのか。炎上を繰り返す広告から、美術史に残る絵画、日常生活まで、新世代の美学者が、前代未聞の「性/生」の哲学を論じる。

朝日新聞 2026/01/24

2025:12./ 213p
978-4-334-10819-9

¥990〔税込〕





河原ノ者・非人・秀吉

服部 英雄 著

山川出版社

差別に耐えながらも社会の重要な役割を担う人びと。その世界に身を置きながら、関白にまで昇りつめた秀吉。フィールド調査と史料の読み直しから、中世の被差別民を対象に差別の歴史を叙述し、彼らの新たな活動を明らかにする。

朝日新聞 2026/01/24

2012:4./ 713p

978-4-634-15021-8

¥3,080〔税込〕



たまさかの古本屋シマウマ書房の日々

鈴木創 著

亜紀書房

新刊書店や図書館とはまた別の角度から、本と読者をつなぐ役割を担っている古本屋・シマウマ書房。日々の仕事の中で多くの書物や人と接し、見て、考えてきた店主が、本の豊かな魅力、読書の醍醐味、活字文化のこれからを綴る。

朝日新聞 2026/01/24

2025:12./ 254p

978-4-7505-1900-5

¥2,200〔税込〕



ヒッチコックをさがせ!〜超近接的映画鑑賞のすすめ〜

D.A. ミラー 著

慶應義塾大学出版会

“サスペンスの帝王”アルフレッド・ヒッチコックの古典的名作たちをコマ単位で徹底分析。超近接的映画鑑賞で巨匠のスタイルを明らかにする。「ダイヤル M を廻せ!」についての書き下ろし論考も収録。

朝日新聞 2026/01/24

2025:10./ 288p

978-4-7664-3066-0

¥3,520〔税込〕



図説豊臣秀長〜秀吉政権を支えた天下の柱石〜

河内 将芳 著

戎光祥出版

兄・豊臣秀吉との絆で天下取りを成し遂げた豊臣秀長。若い頃から戦場を駆け回り、秀吉に最も信頼された天下一の“懐刀”としての実像を、多数の図版とともに最新研究でひもとく。

朝日新聞 2026/01/24

2025:5./ 166p

978-4-86403-575-0

¥2,200〔税込〕



「なむ」の来歴

斎藤 真理子 著

イースト・プレス

日本、韓国、沖縄、どこへ行っても本は木(なむ)でできていた-。翻訳者である著者がこれまで生きてきた地で感じたこと、言葉にしたこと、詩で表現したことなど、三点測量するように書いてきたエッセイを集大成。

朝日新聞 2026/01/24、毎日新聞 2026/01/24

2025:11./ 274p

978-4-7816-2508-9

¥1,980〔税込〕





ブーズたち鳥たちわたしたち

江國 香織 著

角川春樹事務所

極上のクラムチャウダーを求めて、ロードアイランドを訪ねた恵理加。初めて両親の元を離れてキャンプに参加した誠也…。自由で幸福で生命の輝きに満ちた連作中篇。『ランティエ』掲載を単行本化。

朝日新聞 2026/01/30

2025:12./ 215p
978-4-7584-1498-2

¥1,870〔税込〕



奇妙でフシギな話ばかり

ブルース・コウヴィル／金原瑞人 著

岩波書店

天使からあずかった箱を守りぬく男の一生、掃除好きな小人と散らかし魔の女の子の攻防、ユニコーンの角に魅せられた孤独な少年…。ユーモアとホラーが織りなす、風変わりな幻想の世界。9つの多彩で味わい深い短編を収録する。

朝日新聞 2026/01/31

2025:11./ 196p
978-4-00-116058-1

¥2,200〔税込〕



どらごんごんどら

たちばな はるか 著

偕成社

龍の頭をもつ宝船「どらごんごんどら」が七福神をのせて、お宝さがしへ出発! どんぶらどんぶらどんぶらこ。目指すは、大海のはるかむこうの宝島。めでたさいっぱい、喜びいっぱい! お祝いにぴったりの絵本。

朝日新聞 2026/01/31

2025:12./ 32p
978-4-03-352240-1

¥1,760〔税込〕



爆発物処理班の遭遇したスピン(講談社文庫 さ 116-5)

佐藤 究 著

講談社

爆破予告のあった小学校に出勤する鹿児島県警爆発物処理班。彼らを待っていたのは、常識を超えた量子力学の謎だった…。警察小説と科学が融合した表題作など、恐怖とスリルに満ちた全8篇を収録する短篇集。

朝日新聞 2026/01/31

2025:12./ 445p
978-4-06-541949-6

¥957〔税込〕



福音派～終末論に引き裂かれるアメリカ社会～(中公新書 2873)

加藤 喜之 著

中央公論新社

独特の終末論的な世界観を持つアメリカの福音派は、いつから勢力を拡大し、政治的・文化的闘争に関与していったのか。アメリカの人種差別や中絶・同性婚問題、イスラエルとの関係などに福音派がいかに関わったのかを描く。

朝日新聞 2026/01/31

2025:9./ 312p
978-4-12-102873-0

¥1,320〔税込〕





プロジェクト・ヘイル・メアリー<上>(ハヤカワ文庫 SF 2506)

アンディ・ウィアー／小野田和子 著

早川書房

宇宙船の中でひとり目覚めたグレース。地球は太陽エネルギーを食らう生命体・アストロファージにより滅亡の危機に瀕しており、グレースが人類救済計画のメンバーに選ばれたのだが…。2026年3月公開映画の原作。

朝日新聞 2026/01/31

2026:1./ 462p
978-4-15-012506-6

¥1,650〔税込〕



プロジェクト・ヘイル・メアリー<下>(ハヤカワ文庫 SF 2507)

アンディ・ウィアー／小野田和子 著

早川書房

グレースに託されたミッションは、観測上アストロファージに感染していない恒星系へと赴き、その理由を探し出すこと。孤独な戦いを強いられていた彼の運命を、予期せぬ出会いが変えていき…。2026年3月公開映画の原作。

朝日新聞 2026/01/31

2026:1./ 447p
978-4-15-012507-3

¥1,650〔税込〕



カップ焼きそばの謎(ハヤカワ新書 050)

塩崎省吾 著

早川書房

高度経済成長の終焉とともに埼玉県のとある中堅メーカーの起死回生の一手として誕生したカップ焼きそばは、その後、半世紀にわたり日本人の食文化を形作っていき…。もうひとつの「国民食」の歴史に迫る。

朝日新聞 2026/01/31

2025:12./ 316p
978-4-15-340050-4

¥1,320〔税込〕



クリスティを読む!～ミステリの女王の名作入門講座～(KEY LIBRARY)

大矢 博子 著

東京創元社

“ミステリの女王”アガサ・クリスティの数々の名作は、なぜこんなに面白いのか。＜探偵＞＜舞台と時代＞＜人間関係＞＜騙しのテクニック＞に焦点を当て、おすすめの作品を紹介しながら、その魅力を丁寧に解説する。

朝日新聞 2026/01/31

2024:1./ 202p
978-4-488-01545-9

¥1,980〔税込〕



猫の狂気～ふしぎで豊かな「猫のこころ」をめぐる探検～

クロード・ベアタ、瀧下 哉代、尾形 庭子 著

山と溪谷社

猫のこころを知れば、奇妙な行動の謎と付き合い方がわかる。粗相や攻撃性、過剰な毛繕い、尿マーキング…。動物行動学と獣医精神医学の知見をもとに、猫の行動の謎とケアを解説する。

朝日新聞 2026/01/31

2025:10./ 407p
978-4-635-23015-5

¥3,300〔税込〕





動物たちのインターネット～生きものたちの知られざる知性と驚異のネットワーク～

マーティン・ヴィケルスキ、プレシ南日子 著

山と溪谷社

ネズミは地震の数日前に逃げ、渡り鳥は夜空で会話し、アシカの子どもは人間と動物の関係性を3年越しに記憶していた-。動物たちの驚くべき知性と相互作用、そして人間との関係を描いたサイエンス・ノンフィクション。

朝日新聞 2026/01/31

2025.9./ 311p
978-4-635-23027-8

¥2,420〔税込〕



ユニバーサル・ミュージアムから人類の未来へ～「目に見えないもの」の精神史～

広瀬浩二郎 著

雄山閣

全盲の文化人類学者で、展示物にさわれるユニバーサル・ミュージアム研究の第一人者が「世界をみる」多様な手法を紹介。さらに盲目の女性旅芸人・瞽女の活動から「ユニバーサル」の真意を導き出す。テキストデータ引換券付き。

朝日新聞 2026/01/31

2025.9./ 222p
978-4-639-03078-2

¥2,860〔税込〕



クィアな時間と場所で～トランスジェンダーの身体とサブカルチャーの生～

ジャック・ハルバスタム 著

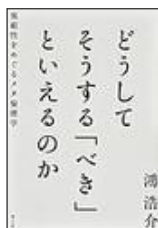
花伝社

「クィアな時間」や「クィアな空間」は存在する-。ヘゲモニックな「時間-空間」モデルを、クィア、トランスジェンダーの身体・欲望・実践から読み換え、新たな「時間性モデル」を構築する。

朝日新聞 2026/01/31

2025.12./ 440p
978-4-7634-2206-4

¥4,180〔税込〕



どうしてそうする「べき」といえるのか～規範性をめぐるメタ倫理学～

鴻 浩介 著

青土社

大小を問わず私たちは日々「べき」という指針に基づき、無数の選択をしながら生きている。「べき」という言葉によって表されているものは一体何か。私たちの生を貫いている言葉の核をていねいに解きほぐす。

朝日新聞 2026/01/31

2025.12./ 384p
978-4-7917-7759-4

¥3,080〔税込〕



おふとんの外は危険(竹書房文庫 い6-1)

キム・イファン 著

竹書房

「おふとんの外は危ないから出ないで」 ある日、突然ふとんの声が聞こえるようになった。ふとんだけではなく、椅子の声もボールペンの声も紙コップの声も…。不思議で楽しい表題作をはじめ、12の奇想短篇を収録。

朝日新聞 2026/01/31

2025.11./ 303p
978-4-8019-4717-7

¥1,760〔税込〕





塩政・関税・国家～近代中国の徴税と社会～

岡本 隆司 著

名古屋大学出版会

唐代から千年以上続いた塩取引の統制と流通課税。清末以降の関税・海関制度との
パラレルな展開を手がかりに、専売・独占といった既存の枠組みでは捉えきれない
その実像を解明し、中国経済・社会の深層構造を浮き彫りにする。

朝日新聞 2026/01/31

2025/10./ 456p
978-4-8158-1207-2

¥7,920〔税込〕



『小学一年生』100年の現代史

野上 暁 著

論創社

21 世紀の今も読み継がれている『小学一年生』は、創刊から 100 年を迎えた。敗
戦に向かう 20 年と戦後 80 年を図版 370 余点で<元編集長>が語り尽くす。

朝日新聞 2026/01/31

2025/11./ 291p
978-4-8460-2525-0

¥3,300〔税込〕



アフター・アガサ・クリスティー～犯罪小説を書き継ぐ女性作家たち～

サリー・クライン、服部 理佳 著

左右社

暴力のリスクに晒されている女性たちが、犯罪小説を好んで読むのはなぜなのか？
1920 年代のアガサ・クリスティーの登場から、現代に至るまでの、女流作家によ
る犯罪小説の系譜を丁寧に辿り、女性と犯罪小説の関係を探る。

朝日新聞 2026/01/31

2023/7./ 341p
978-4-86528-379-2

¥3,630〔税込〕



ぼくをグレーってよんで

アンドリュウ・ラーセン、ベルズ・ラーセン 著

光村教育図書

毎年冬になると、パパとぼくは 2 人でスケートリンクを作る。いつも待ち遠しいそ
の作業が、今年は何かが違う。自分が何者なのか、わからなくなることがあるって
こと、自分が女の子みたいに感じるってことをパパに話すと....。

朝日新聞 2026/01/31

2025/12./ 32p
978-4-89572-169-1

¥1,760〔税込〕



交渉で必要なことはすべてネコが教えてくれた

ジェイ・ハインリックス 著

S Bクリエイティブ

ネコが凄腕ネゴシエーターであり、暗黙のうちに様々な説得術を駆使していること
に着目。ネコとのやり取りを例に挙げながら、人間関係における効果的な交渉・説
得術を解説する。

東京・中日新聞 2026/01/10

2025/9./ 213p
978-4-8156-3632-6

¥1,650〔税込〕





世界認識の再構築～17 世紀オランダからの全体知～

寺島 実郎 著

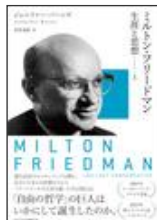
岩波書店

中世から近代への歴史潮流の中で「黄金時代」を築いた 17 世紀オランダ。いかにして資本主義、民主主義、科学技術という近代の支柱が胎動する舞台となったのか。世界と日本の歴史を考察し、近代とは何かを捉え直す。

東京・中日新聞 2026/01/11

2025:9./ 394p
978-4-00-025680-3

¥2,970〔税込〕



ミルトン・フリードマン～生涯と思想～<上>

ジェニファー・バーンズ 著

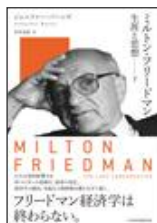
日経 B P 社

現代経済学のフロンティアを開き、社会にも多大な影響を与えたミルトン・フリードマンの全生涯を、アーカイブに基づき再現した伝記。上は、経済学者として地位を築いていく様子を、恩師や友人らの交流も交えて描く。

東京・中日新聞 2026/01/11、日本経済新聞 2026/01/31

2025:10./ 413p
978-4-296-12012-3

¥5,500〔税込〕



ミルトン・フリードマン～生涯と思想～<下>

ジェニファー・バーンズ 著

日経 B P 社

現代経済学のフロンティアを開き、社会にも多大な影響を与えたミルトン・フリードマンの全生涯を、アーカイブに基づき再現した伝記。下は、1960 年代から晩年までの後半生を描く。

東京・中日新聞 2026/01/11、日本経済新聞 2026/01/31

2025:10./ 429p
978-4-296-12013-0

¥5,500〔税込〕



おまあ推理帖

諸田 玲子 著

文藝春秋

浅草ご隠居暮らしのおまあさん。奉行所に張られた殺人予告、榎屋敷の 15 年前の怪異、美貌のお中臈の怨み。おまあさんの家には女たちが集い、様々な悩みや事件が持ち込まれ…。『オール讀物』掲載を書籍化。

東京・中日新聞 2026/01/17

2026:1./ 299p
978-4-16-392055-9

¥2,035〔税込〕



全宗～秀吉の侍医にして名参謀～(朝日文庫 朝日時代小説文庫 ひ 23-6)

火坂雅志 著

朝日新聞出版

甲賀出身で比叡山の薬樹院に学んだ施薬院全宗は、師・曲直頼道三を踏み台に豊臣政権の中枢に食い込む。今まで歴史の表面に登場したことがない、知られざる名参謀の野心と乱世を描いた歴史長篇小説。

東京・中日新聞 2026/01/24

2025:12./ 604p
978-4-02-265224-9

¥1,540〔税込〕





イオラと地上に散らばる光

安壇 美緒 著

KADOKAWA

ワンオペ育児で追い詰められた母親が、赤ん坊を抱いたまま夫の上司を刺した。事件を取り上げたWEB記事をきっかけに、イオラという犯人の特徴的な名前や事件の異常さが注目を集め…。『小説野性時代』掲載を改題、加筆修正。

東京・中日新聞 2026/01/24

2025:11./ 218p
978-4-04-116242-2

¥1,870〔税込〕



女性が建てた家と間取り〜インテリア、暮らしを美しいイラストで完全再現〜

田中 厚子、松下 希和 著

エクスナレッジ

茨木のり子、いわさきちひろ、林芙美子…。大正から昭和にかけて、女性が施主となって家を建てた事例を取り上げ、そのライフスタイルや暮らしに対する考え方、暮らしを彩る様々な工夫を紹介する。建築用語の解説なども収録。

東京・中日新聞 2026/01/24

2025:12./ 143p
978-4-7678-3511-2

¥1,980〔税込〕



いくつもの武蔵野へ〜郊外の記憶と物語〜

赤坂 憲雄 著

岩波書店

昔も今も東京を生かしてきたのは、西側に広がる武蔵野の土、水、人。幼き日の原風景を遡り、文学やアニメ等から武蔵野をめぐる知の脈脈を掘り起こす。土地に根ざすことなき民俗学の試み。『東京人』ほか掲載を書籍化。

東京・中日新聞 2026/01/25

2025:10./ 286p
978-4-00-061725-3

¥3,080〔税込〕



ラジオからロックンロールが聞こえる(CD ジャーナルムック)

北中 正和 著

シーディージャーナル

「オールナイトニッポン」「ポート・ジョッキー」…。ロックンロールなどの洋楽をオンエアしてきた、ラジオがもっとも熱かった60年代前後のラジオ番組の舞台裏と熱狂を、渋谷陽一や佐野元春らのインタビューとともに伝える。

東京・中日新聞 2026/01/25

2026:1./ 391p
978-4-909774-33-0

¥3,300〔税込〕



飛上りもん

高田 在子 著

中央公論新社

紀伊国の豪農・井澤弥惣兵衛は治水技術「紀州流」を確立。徳川吉宗に江戸へ呼び寄せられ、60歳を過ぎて旗本に取り立てられて…。変わり者の天才を支えた家族や弟子たちとのエピソードを交えて綴る、壮大な人間ドラマ。

東京・中日新聞 2026/01/31

2026:1./ 433p
978-4-12-005982-7

¥2,750〔税込〕





家族と私がうれしいごはん

村井 理子 著

亜紀書房

おつまみ、メイン、常備菜…。ありあわせの材料で、ざっくり作れば大丈夫! 翻訳家・エッセイストの村井理子が、難しい材料をそろえなくても作れる、“簡単でうれしい”レシピを紹介する。ウェブサイト連載に加筆し書籍化。

東京・中日新聞 2026/01/31

2026:2./ 133p
978-4-7505-1895-4

¥1,760〔税込〕



最新報告混迷のリニア中央新幹線

樫田秀樹 著

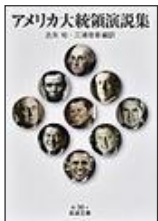
旬報社

リニア中央新幹線の開業延期は“静岡のせい”ではない。頻発する湧水、地盤沈下、残土処理などのトラブルと 10 年以上の工期遅れ。トンネルの先に光は見えない…。リニア問題に最も肉薄するジャーナリストによる最新ルポ。

東京・中日新聞 2026/01/31

2025:10./ 274p
978-4-8451-2134-2

¥1,980〔税込〕



アメリカ大統領演説集(岩波文庫 白 36-1)

古矢 旬、三浦 俊章 編

岩波書店

ワシントンからオバマまで、アメリカ大統領は自国民や世界に向けて、いかなる課題を訴えてきたか。時代を画した 29 の重要演説によって、建国以来のアメリカの歩みをたどる。対日開戦演説や原爆投下声明も収録する。

読売新聞 2026/01/04

2025:11./ 466p
978-4-00-340361-7

¥1,430〔税込〕



紋章のヨーロッパ史(角川ソフィア文庫 I425-1)

浜本 隆志 著

KADOKAWA

中世ヨーロッパの騎士の楯に端を発する紋章は、王侯・貴族の権威の象徴となり、国家の標章へと発展していった。中世から現代へと至る、紋章と社会の関わりを解き明かす。基礎知識をまとめた「紋章学入門」の章も収録。

読売新聞 2026/01/04

2025:11./ 256p
978-4-04-400870-3

¥1,254〔税込〕



ペルソナ～三島由紀夫伝～(中公文庫 い 108-8)

猪瀬 直樹 著

中央公論新社

「仮面の告白」にある、祖父の疑獄事件とは何か。「絹と明察」で求めた究極の家長とは。三島の家系と明治以来の官僚機構を重ね、近代日本の変遷の中に作家が目指した世界を位置づける、異色の三島評伝。

読売新聞 2026/01/04

2025:11./ 481p
978-4-12-207716-4

¥1,650〔税込〕





本を作るのも楽しいですが、売るのはもっと楽しいです。～韓国の文学を届ける～

金 承福 著
岩波書店

韓国と日本、本と人をつなぐ仕事。出版社<クオン>社長にして書店<チェッコリ>店主による、読むことへの愛と信頼に満ちたエッセイ。『世界』連載に書き下ろしを加えて単行本化。

読売新聞 2026/01/11

2025.11./ 212p
978-4-00-061730-7

¥2,420〔税込〕



ねこがしんぱい

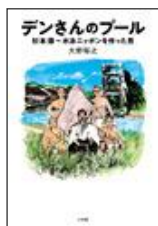
角田 光代 著
KADOKAWA

わたしも、お父さんも、お母さんも、留守番をしているねこのたまこを心配しています。みんながいない時、たまこはどう過ごしているの？ 家族のだれも知らないけれど、じつは、たまこは…。笑って、愛おしくなる猫の絵本。

読売新聞 2026/01/11

2025.10./ 38p
978-4-04-115845-6

¥1,760〔税込〕



デンさんのプール～杉本傳～水泳ニッポンを作った男～

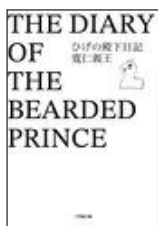
大野 裕之 著
小学館

大正時代の大阪に、生徒たちと一緒にグラウンドを掘って、日本初の近代プールを作った伝説の教師がいた。彼の名は杉本傳-。秘蔵写真に未公開資料、親族・関係者への取材などをもとに描くノンフィクション。

読売新聞 2026/01/11

2025.11./ 303p
978-4-09-389821-8

¥1,870〔税込〕



ひげの殿下日記(小学館文庫 と 13-1)

寛仁親王 著
小学館

日常の些細なできごと、ご友人、宮家職員、警察官とのエピソード、公式行事のこと、闘病のこと…。“ひげの殿下”として愛された三笠宮寛仁親王のコラムをまとめる。

読売新聞 2026/01/11

2025.12./ 540p
978-4-09-407522-9

¥1,034〔税込〕



みずうみ 新版(新潮文庫 か-1-13)

川端 康成 著
新潮社

高校教師の銀平は、教え子の久子と密かに愛し合うようになる。だが、ふたりの幸福は長くは続かなかった…。初恋の従姉、蛍狩りに訪れた少女など、銀平が思いを寄せた女性たちの面影や情景が連想されていく“問題作”。

読売新聞 2026/01/11

2023.1./ 192p
978-4-10-100247-7

¥605〔税込〕





影の地帯 改版(新潮文庫)

松本 清張 著

新潮社

読売新聞 2026/01/11

2001:12./ 718p
978-4-10-110922-0

¥1,210〔税込〕



ある愛の寓話(文春文庫 む 13-9)

村山 由佳 著

文藝春秋

捨てられた猫、恋人の犬、カエルのぬいぐるみ…。言葉は伝わらなくても、わたしは愛している-。恋愛文学の第一人者・村山由佳のデビュー30年記念作品。「同じ夢」など全6編を収録。

2025:12./ 268p
978-4-16-792450-8

¥792〔税込〕



読売新聞 2026/01/11



人間失格(ちくま文庫 た 12-13)

太宰 治 著

筑摩書房

己は人間として「失格」なのだと思断ずる男は、手記と写真を残して消えた-。入水直前の太宰治が放った世界的人気作を、安藤宏による作家案内、多和田葉子の解説とともに収録。初版単行本表紙&冒頭の直筆原稿のカラー口絵付き。

2025:12./ 183p
978-4-480-44073-0

¥792〔税込〕



読売新聞 2026/01/11



歴史小説のウソ(ちくまプリマー新書 510)

佐藤賢一 著

筑摩書房

なぜ私たちは、創作物の中に歴史の真実があると感じるのか？ その秘密は、歴史と歴史学と歴史小説のもつれた関係にあった-。人気歴史小説家が「真実」を創り出す手口を明かし、自分の歴史観を持つ方法を語る。

2025:12./ 169p
978-4-480-68541-4

¥990〔税込〕



読売新聞 2026/01/11



アウシュヴィッツの恋人たち

ケレン・ブランクフェルド、杉田 七重 著

東京創元社

23歳で強制収容所に移送されたツイッピ。家族を殺害され、同じ収容所に到着した16歳のダヴィド。初めて会った瞬間からふたりは恋に落ち、命がけの逢瀬を重ねる。解放後、ツイッピは再会を約した地に向かうが-

2025:11./ 426p
978-4-488-00400-2

¥3,850〔税込〕



読売新聞 2026/01/11

湖底のまつり(創元推理文庫)

泡坂 妻夫 著

東京創元社

傷ついた心を癒す旅に出た香島紀子は、山間の村で急に増水した川に流されてしまう。ロープを投げ、救いあげてくれた埴田晃二とその夜結ばれるが、翌朝晃二の姿は消えていた。村祭で賑わう神社に赴いた紀子は、晃二がひと月前に殺されたと教えられ愕然とする。

1994:6./ 302p
978-4-488-40213-6

¥836〔税込〕



読売新聞 2026/01/11



つくられた日本の自然～「日本の自然」はどのように語られてきたか～

大貫 恵美子 著

みすず書房

「日本の自然」は自然の実態そのものではない。それは自然を表象したものであり、長い歴史のなかで文化的に構築されてきたものである。万葉歌が育んだ四季概念から現代の消費主義まで、自然という作為を人類学の視座から描く。

2025:11./ 248p
978-4-622-09752-5

¥3,520〔税込〕



読売新聞 2026/01/11



中世の日記をひらく<6> 看聞日記

松菌 斉、後崇光院、松菌 斉 著

臨川書店

優しい宮様。元気な女房、尼君。生真面目な廷臣、そして芸達者な侍たち。宮家の御所は室町文化が花盛り。貞成親王の「看聞日記」のうち、応永 23 年、応永 32 年、嘉吉 3 年の日記を現代語訳する。

2025:9./ 260p
978-4-653-04826-8

¥4,180〔税込〕



読売新聞 2026/01/11



イギリスを泳ぎまくる

ロジャー・ディーキン 著

亜紀書房

イギリスの川をあちこちと泳ぎまくりながら、川と親しむ人々の暮らしを見つめる。泳ぐことの陶酔を書きつけながら、静かに自然保護の重要性を訴えた、特異で、驚異のスイミング・レポート。

2008:12./ 420p
978-4-7505-0813-9

¥2,750〔税込〕



読売新聞 2026/01/11



日本全国池さんぽ

市原千尋 著

三オブックス

池は 99%が人工。浅いのが沼…。7 千以上もの湖沼を訪ね歩いた池マニアが、鳥瞰図で描いた池の図鑑。全県を網羅した 181 の池を、8 つのタイプに分けて紹介する。農林水産省が選定した「ため池百選」も収録。

2019:8./ 191p
978-4-86673-137-7

¥2,200〔税込〕



読売新聞 2026/01/11



なぜ日本文学は英米で人気があるのか(ハヤカワ新書 051)

鴻巣友季子 著

早川書房

英米の書評に見られる意外な形容、日英翻訳家たちの創意工夫とネットワーク、排外主義的な政治状況に反発する若い世代からの支持…。翻訳家・文芸評論家である著者が、日本文学が英米において人気がある理由を読み解く。

2025:12./ 254p
978-4-15-340051-1

¥1,254〔税込〕



読売新聞 2026/01/11、読売新聞 2026/01/18



社内政治の科学～経営学の研究成果～

木村 琢磨 著

日経BP社

印象操作、派閥、権力争い、ゴマすり、根回し…。社会科学の知見に裏づけられた社内政治の全体像を丁寧に解説するとともに、それを現場でどのように実践に活かすかを考察する。

2025:11./ 254p
978-4-296-12506-7

¥2,200〔税込〕



読売新聞 2026/01/11、日本経済新聞 2026/01/17



ジョン・レノン運命をたどる～ヒーローはなぜ撃たれたのか～

青木富貴子 著

講談社

音楽と政治、ヨーコ・オノとの出会い、精神世界への傾倒、日本への関心…。ジョン・レノンは何を考え、それは時代にどう響いたか？狙撃犯が語った「空白の真実」とは？20世紀最大のロックスターの生と死の真実に迫る。

2025:12./ 302p
978-4-06-541637-2

¥2,200〔税込〕



読売新聞 2026/01/11、毎日新聞 2026/01/24



歌よみに与ふる書 改版(岩波文庫 緑 13-6)

正岡 子規 著

岩波書店

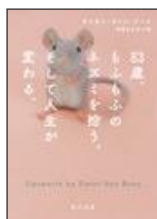
明治31年に発表された表題作は、『古今集』を和歌の聖典としてきた千年近い歴史がもつ価値観を転倒させた衝撃的な歌論であった。万葉の歌風を重んじ、現実写生の原理を究明した子規の歌論は、全篇に和歌改革への情熱が漲り、今なお我々を打つ。

1983:3./ 182p
978-4-00-310136-0

¥572〔税込〕



読売新聞 2026/01/18



83歳、もふもふのネズミを拾う。そして人生が変わる。(角川文庫 フ 41-1)

サイモン・ヴァン・ブーイ／寺尾まち子 著

KADOKAWA

夫と息子を亡くし、長い海外生活から故郷の英国に戻ってきた孤独なヘレン。望みはさっさとこの世を去ることだけ。しかし、ある冬の朝、1匹のもふもふのネズミと出会い、人生が変わる。それもたった2週間で…。

2025:12./ 265p
978-4-04-116629-1

¥1,320〔税込〕



読売新聞 2026/01/18



数学入門(角川ソフィア文庫 K145-1)

アルフレッド・ノース・ホワイトヘッド 著

KADOKAWA

初学者に向けた数学入門。変数や形式といった数学の基本的なアイデアがいかにして生まれ、どのような意義をもつのかを解説する。近代数学と現代数学の転換点に書かれた名著の新訳。

2025.12./ 336p
978-4-04-400877-2

¥1,496〔税込〕



読売新聞 2026/01/18



ヘヴン(講談社文庫 か 112-3)

川上 未映子 著

講談社

「めめられ、暴力をふるわれ、なぜ僕はそれに従うことしかできないのだろう」少年の、痛みを抱えた目に映る「世界」に救いはあるのか。善悪の根源を問う長篇小説。

2012.5./ 311p
978-4-06-277246-4

¥748〔税込〕



読売新聞 2026/01/18



すべて真夜中の恋人たち(講談社文庫 か 112-4)

川上 未映子 著

講談社

ふたりで話したことを思いだし、とても好きだったことを思いだし、ときどき泣き、また思いだし、それから、ゆっくりと忘れていった…。恋愛の究極を投げかける長編小説。

2014.10./ 350p
978-4-06-277940-1

¥814〔税込〕



読売新聞 2026/01/18



献灯使(講談社文庫 た 74-4)

多和田 葉子 著

講談社

大災厄に見舞われた後、鎖国状態の日本。死を奪われた世代の老人・義郎には、体が弱い曾孫・無名をめぐる心配事が尽きない。やがて無名は「献灯使」として海外へ旅立つ運命に…。全5編を収録。

2017.8./ 268p
978-4-06-293728-3

¥715〔税込〕



読売新聞 2026/01/18



大きな鳥にさらわれないよう(講談社文庫 か 113-3)

川上 弘美 著

講談社

遙か遠い未来、滅亡の危機に瀕した人類は、小さな集団に分かれ、密やかに暮らしていた。生きながらえるために、ある祈りを胸に秘め-。かすかな光を希求する人間の行く末を暗示した、新しい神話。

2019.10./ 413p
978-4-06-517446-3

¥902〔税込〕



読売新聞 2026/01/18



密やかな結晶 新装版(講談社文庫 お 80-5)

小川 洋子 著

講談社

その島では、記憶が少しずつ消滅していく。何が消滅しても、島の人々は適応し、淡々と事実を受け入れていく。小説を書くことを生業とするわたしも、例外ではなかった。ある日、島から小説が消えるまでは…。

読売新聞 2026/01/18

2020:12./ 445p
978-4-06-521464-0

¥946〔税込〕



地球にちりばめられて(講談社文庫 た 74-5)

多和田 葉子 著

講談社

留学中に故郷の島国が消滅してしまった女性 Hiruko は、ヨーロッパ大陸で生き抜くため、独自の言語<パンスカ>をつくり出す。彼女は言語学を研究する青年とともに、自分と同じ母語を話す者を探す旅に出て…。

読売新聞 2026/01/18

2021:9./ 349p
978-4-06-523815-8

¥792〔税込〕



植物哲学～自然と人のよりよい付き合い方～(講談社選書メチエ 830)

川原 伸晃 著

講談社

人為なき自然は人を癒さない、人は植物に対してもっと「不真面目」でいい。「哲学する園芸家」が、その特異な経験から紡ぎ出す、「自然とよりよく生きる」ための言葉と実践。

読売新聞 2026/01/18

2025:10./ 244p
978-4-06-541284-8

¥2,090〔税込〕



BUTTER(新潮文庫 ゆ-14-3)

柚木 麻子 著

新潮社

男たちの財産を奪い、殺害した容疑で逮捕された梶井真奈子。週刊誌記者の町田里佳は、梶井の面会を取り付けるが、欲望に忠実な梶井の言動に触れるたび、里佳の内面も外見も変貌。親友や恋人の運命をも変えていき…。

読売新聞 2026/01/18

2020:2./ 591p
978-4-10-120243-3

¥1,045〔税込〕



サッチャー～「鉄の女」の実像～(中公新書 2879)

池本 大輔 著

中央公論新社

20 世紀後半を代表する政治家、サッチャー。その政策は「英国病」を克服したと言われる一方、新自由主義の急先鋒と批判も招いた。彼女の激動の生涯を追い、経済から外交までの政策を俯瞰し、彼女の「遺産」を浮き彫りにする。

読売新聞 2026/01/18

2025:10./ 336p
978-4-12-102879-2

¥1,375〔税込〕





戦後史 1945-2025～敗戦からコロナ後まで～(中公新書 2881)

安岡 健一 著

中央公論新社

アジア・太平洋戦争による壊滅から経済大国化したものの、「失われた 30 年」で低迷する日本。東アジアとの関係、都市と農村、家族とジェンダーに着目しながら、戦後日本の軌跡を描く。日本国憲法などの資料も収録。

2025.11./ 408p
978-4-12-102881-5

¥1,430〔税込〕



読売新聞 2026/01/18



コンビニ人間(文春文庫 む 16-1)

村田 沙耶香 著

文藝春秋

36 歳未婚女性、古倉恵子。大学卒業後も就職せず、コンビニのバイトは 18 年目。これまで彼女なし。ある日、婚活目的の新入り男性、白羽がやってきて、そんなコンビニの生き方は恥ずかしいと突きつけられるが...

2018.9./ 168p
978-4-16-791130-0

¥693〔税込〕



読売新聞 2026/01/18



ハンチバック(文春文庫 い 116-1)

市川 沙央 著

文藝春秋

重度障害者の井沢釈華は、10 畳の自室からあらゆる言葉を送り出す。釈華の背骨は、右肺を押し潰すかたちで極度に湾曲し、生きたら生きるほど、身体はいびつに壊れていき…。荒井裕樹との往復書簡を追加して文庫化。

2025.10./ 134p
978-4-16-792425-6

¥660〔税込〕



読売新聞 2026/01/18



眠れなくなる未来の宇宙のはなし(宝島社文庫 C さ-21-1)

佐藤勝彦 著

宝島社

地球は再び「氷期」に入る？ すべての恒星が燃え尽きる？ 新たな「子ども宇宙」が誕生する？ 宇宙物理学者の著者が、地球や太陽、天の川銀河、さらに宇宙全体の未来について紹介する。最新の知見を補筆した文庫版。

2025.12./ 249p
978-4-299-07396-9

¥990〔税込〕



読売新聞 2026/01/18



JR 上野駅公園口(河出文庫 ゆ 3-3)

柳 美里 著

河出書房新社

東京オリンピックの前年、男は出稼ぎのため、上野駅に降り立った。そして男は彷徨い続ける、生者と死者が共存するこの国を…。福島県に生まれた一人の男の生涯を通じて<日本>を描く。

2017.2./ 181p
978-4-309-41508-6

¥660〔税込〕



読売新聞 2026/01/18



ババヤガの夜(河出文庫 お 46-1)

王谷 晶 著

河出書房新社

愛ではない。愛していないから憎みもしない。憎んでないから一緒にいられる-。暴力を唯一の趣味とする新道依子は、腕を買われ暴力団会長の一人娘を護衛することになり…。バイオレンスアクション。

読売新聞 2026/01/18

2023:5./ 204p

978-4-309-41965-7

¥748〔税込〕



死んだら無になる

西村 亨 著

筑摩書房

恋愛に絶望し、仕事にも倦み、家族はいよいよ疎ましく、ささやかなセルフケアも世間が容赦なく水を差してくる。すべての苦しみから逃れて「無」になることを求め赴いた怪しげな座禅道場で、柳田譲が見たものとは…。

読売新聞 2026/01/18

2025:10./ 165p

978-4-480-80527-0

¥1,980〔税込〕



ふゆみずたんぼを巡る旅～生きものにぎわう田んぼの世界～

岩渕 成紀 著

農山漁村文化協会

冬の間、水を溜めたままにした田んぼは生物多様性が高まり、化学肥料や農薬に頼らない稲作が可能になる-。田んぼの生きもの調査を続ける著者が、全国の「ふゆみずたんぼ」を訪ね歩き、実践者の声を聞き取った貴重な物語。

読売新聞 2026/01/18

2025:9./ 399p

978-4-540-22206-1

¥2,750〔税込〕



美しいインクルージョンの宝石・鉱物図鑑

atelier Ruchi、門馬 綱一 著

エクスナレッジ

鉱物や宝石の内部に取り込まれた別種鉱物や液体などの包有物「インクルージョン」。そのアートのような美しさやコレクション的魅力に注目し、珍しい組み合わせのものや価値が加わったものなど全 77 点を写真とともに紹介する。

読売新聞 2026/01/18

2025:12./ 183p

978-4-7678-3475-7

¥1,980〔税込〕



作家がスターだった時代～文春文士劇の45年～

道又力 著

現代書館

文士=作家が演じる素人芝居「文士劇」。昭和 9 年に始まり、戦争での中断を挟んで昭和 53 年まで続いた文藝春秋主催「文春文士劇」の全容と作家たちの真剣なドタバタを、余すところなく伝える。

読売新聞 2026/01/18

2025:11./ 221p

978-4-7684-5984-3

¥2,530〔税込〕





廃墟のヨーロッパ

国末 憲人 著

草思社

大事故の痕跡、産業政策の残骸、戦争遺跡…。ヨーロッパ各地の「廃墟」が問いかける、私たちの過去と現在、そして未来-。丹念な現地取材とインタビューを重ねて、語られざる現代史の深層部分を浮き彫りにするルポルタージュ。

読売新聞 2026/01/18

2025:12./ 339p
978-4-7942-2809-3

¥2,860〔税込〕



福田徳三と大正デモクラシー〜吉野作造・生存権・朝鮮観〜(シリーズ福田徳三の世界 3)

武藤 秀太郎 著

信山社出版

大正デモクラシーを先導し、関東大震災でも面目躍如。政治学者・吉野作造と牽引した社会改造のうねりの中で、生存権の確立と人間の復興をうたった、デモクラットとしての福田徳三の姿を描く。

読売新聞 2026/01/18

2025:9./ 384p
978-4-7972-0033-1

¥4,180〔税込〕



『常識保守』のすすめ

片山さつき 著

飛鳥新社

ウクライナ・ロシア戦争、イスラエル・パレスチナ紛争、トランプ米大統領誕生…。世界混迷の時代に、日本が取るべき道はどこにあるのか。参議院議員の著者が、守るべき日本の「常識」とその脅威を分析し、処方箋を提示する。

読売新聞 2026/01/18

2025:6./ 247p
978-4-86801-085-2

¥1,870〔税込〕



平和と愚かさ(ゲンロン叢書 019)

東浩紀 著

ゲンロン

ウクライナ、ユーゴスラヴィア、ベトナム、中国、アメリカなど、観光客として戦争の記憶を訪ね歩いた哲学者・東浩紀が、「考えないこと」からの平和論を綴る。『ゲンロン』掲載などに書き下ろしを加え書籍化。

読売新聞 2026/01/18、毎日新聞 2026/01/24

2025:12./ 498p
978-4-907188-67-2

¥3,300〔税込〕



今は何時ですか?

丸谷才一 著

新潮社

作家、エッセイスト、批評家、翻訳家として読者を愉しませつづけた稀代の文学者・丸谷才一。その生誕百年を記念し、知られざる傑作から遺作「茶色い戦争ありました」まで、全4編の短篇集未収録作を集めて収録する。

読売新聞 2026/01/18、毎日新聞 2026/01/31

2025:12./ 155p
978-4-10-320610-1

¥2,530〔税込〕





小雨日記 新装版

小泉 今日子 著

KADOKAWA

ちっちゃい、ネズミのようだったのに、すっかりメタボな猫さんになったロシアンブルー・小雨。小泉今日子が小雨の目線でキョーコの日常を綴った観察日記。小泉今日子自身が撮影した猫の写真、書き下ろしエッセイも収録。

2026:1./ 173p

978-4-04-902608-5

¥1,980〔税込〕



読売新聞 2026/01/25



オードリー・タンの母が綴る「家族と教育」～世界に絶望した子どもが、自分を取り戻すまで～(集英社文庫 こ48-1)

近藤弥生子 著

集英社

台湾で「周囲との摩擦を恐れず、自主教育を広めるために告白する、ギフトッドと主流の価値観との争いにおける成長の歴史」と紹介されたオードリー・タンの母親の手記を、台湾在住の日本人ライターが紹介する。

2025:12./ 254p

978-4-08-744846-7

¥825〔税込〕



読売新聞 2026/01/25



完本檀流クッキング

檀 一雄／檀 太郎／檀 晴子 著

集英社

昭和文壇屈指の料理人=檀一雄が指南する、愉快、痛快、型破りなクッキング・ブック。既刊本未収録 64 作を含め、全 158 編の料理エッセイを収録。あわせて、長男・檀太郎&晴子夫妻による再現レシピも掲載する。

2016:3./ 453p

978-4-08-780780-6

¥3,300〔税込〕



読売新聞 2026/01/25



花筐(P+D BOOKS)

檀 一雄 著

小学館

10 代の大学予備校生たちの愛と友情をみずみずしく描いた、青春の記念碑ともいえる表題作をはじめ、自身の南極捕鯨船の乗船体験を元に描いた「ペンギン記」、自伝的な「白雲悠々」「誕生」など全 6 編を収録。

2017:12./ 298p

978-4-09-352323-3

¥825〔税込〕



読売新聞 2026/01/25



小説太宰治(P+D BOOKS)

檀 一雄 著

小学館

“天才”太宰治と駆けぬけた著者の狂躁的「青春回想録」。昭和 8 年に太宰治と出会ったときに「天才」と直感し、それを宣言までした作家・檀一雄が、作家同士ならではの視線で、太宰治の本質を赤裸々に描く。

2019:6./ 227p

978-4-09-352366-0

¥715〔税込〕



読売新聞 2026/01/25



火宅の人<上巻> 改版(新潮文庫)

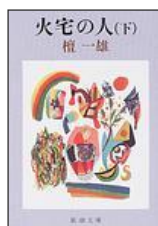
檀 一雄 著

新潮社

読売新聞 2026/01/25

2003:3./ 478p
978-4-10-106403-1

¥825〔税込〕



火宅の人<下巻> 改版(新潮文庫)

檀 一雄 著

新潮社

読売新聞 2026/01/25

2003:3./ 476p
978-4-10-106404-8

¥825〔税込〕



死の棘 改版(新潮文庫)

島尾 敏雄 著

新潮社

ぎりぎりまで追いつめられた夫と妻の姿を生々しく描き、夫婦の絆とは何か、愛とは何かを底の底まで見据えた凄絶な人間記録。

2003:2./ 620p
978-4-10-116403-8

¥1,100〔税込〕



読売新聞 2026/01/25



「死の棘」日記(新潮文庫)

島尾 敏雄 著

新潮社

読売新聞 2026/01/25

2008:7./ 557p



筋肉と脂肪 身体の声なき(新潮文庫 ひ-24-8)

平松 洋子 著

新潮社

スポーツが得意だったら、自分の人生も少しは違っていただろうか。「食」を書き続ける著者が、そんな夢に端を発し、力士、陸上選手、スポーツ栄養士、サプリメントや体脂肪計の開発者らに取材。身体と食の関係に迫る。

2025:10./ 509p
978-4-10-131658-1

¥935〔税込〕



読売新聞 2026/01/25



狂うひと〜「死の棘」の妻・島尾ミホ〜(新潮文庫 か-50-2)

梯 久美子 著

新潮社

島尾敏雄の私小説「死の棘」の愛人の正体は？本当に狂っていたのは妻か夫か？島尾夫妻それぞれの日記や手紙など膨大な資料によって、妻・ミホの生涯を辿り、戦後文学史に残る伝説的夫婦の真実に迫る。

2019:9./ 905p
978-4-10-135282-4

¥1,265〔税込〕



読売新聞 2026/01/25



魔の山<上巻> 改版(新潮文庫)

トーマス・マン 著

新潮社

読売新聞 2026/01/25

2005:6./ 710p

978-4-10-202202-3

¥1,155〔税込〕



魔の山<下巻> 改版(新潮文庫)

トーマス・マン 著

新潮社

読売新聞 2026/01/25

2005:6./ 806p

978-4-10-202203-0

¥1,265〔税込〕



叫び

島山丑雄 著

新潮社

早野ひかるは「先生」に打ちのめされ、銅鐸と土地の来歴を学ぶ。かつてここには、満州に渡って「陛下への花束」を編み、紀元 2600 年記念万博を楽しみにしていた青年がいた。恋愛政治小説。『新潮』掲載に加筆修正。

2026:1./ 135p

978-4-10-356751-6

¥1,870〔税込〕



読売新聞 2026/01/25



イラン現代史～イスラーム革命から核問題、対イスラエル戦争まで～(中公新書 2882)

黒田 賢治 著

中央公論新社

1979 年にホメイニー師を中心とした革命で発足し、中東でも反アメリカ、反イスラエルの急先鋒として存在感を示すイラン・イスラーム共和国。革命以後の軌跡を、政治・経済・社会の側面から迫る。

2025:11./ 288p

978-4-12-102882-2

¥1,155〔税込〕



読売新聞 2026/01/25



檀流クッキング 改版(中公文庫)

檀 一雄 著

中央公論新社

読売新聞 2026/01/25

2002:9./ 248p

978-4-12-204094-6

¥880〔税込〕



アフリカから来たランナーたち～箱根駅伝のケニア人留学生～(文春新書 1518)

泉秀一 著

文藝春秋

箱根駅伝のエース区間「花の 2 区」を誰よりも速く駆け抜けるケニア人留学生ランナーたち。彼らの家族、兄弟、故郷、友人、来日の動機、引退後といった“謎”を、アフリカでの取材に基づいて解き明かす。

2025:12./ 287p

978-4-16-661518-6

¥1,210〔税込〕



読売新聞 2026/01/25



花やゆうれい〜歌画集〜

佐藤 弓生 著

ほるぷ出版

名もなき、だなんて言っても誰も名を知らないだけの花やゆうれい ゆうれいも手をふるものかタチアオイそのはなびらのうすうすゆれて 歌人・佐藤弓生と絵本作家・町田尚子の、描き下ろしを含む書籍未収録作品による歌画集。

読売新聞 2026/01/25

2025.10./ 128p
978-4-593-10533-5

¥2,750〔税込〕



動物たちの「増え過ぎ」と絶滅を科学する(ミネルヴァ・サイエンスライブラリー 1)

齊藤 隆 著

ミネルヴァ書房

クマは「増え過ぎ」なのか? 動物たちはなぜ絶滅しそうになったり、増え過ぎたりするのか? 人間と野生動物の関わり合いの歴史を背景に置いて、個体群生態学の基本的な考え方や発展の過程を解説する。

読売新聞 2026/01/25

2025.10./ 252p
978-4-623-09936-8

¥2,200〔税込〕



藤堂高虎〜侍は討ち死に仕り候が本儀二候〜(ミネルヴァ日本評伝選)

藤田 達生 著

ミネルヴァ書房

豊臣家・徳川家の信頼厚き天下人の側近、藤堂高虎。新しい時代を築いた異能の武将の軌跡を追い、勇猛な戦国武将・築城名人のイメージにとどまらない、新しい藤堂高虎像を描き出す。

読売新聞 2026/01/25

2026.1./ 276p
978-4-623-09984-9

¥3,080〔税込〕



東京で育つ/育てる〜母子の生活史と不平等の布置〜

知念 渉 編

有斐閣

都市で子どもを育てることは、なぜ、どのように苦しいのか? 東京のある地域を対象に行なった社会調査をもとに、厚みのある生の語りを生活史として収録。問題の所在と核心を、社会空間分析により浮かび上がらせる試み。

読売新聞 2026/01/25

2025.11./ 364p
978-4-641-17510-5

¥3,520〔税込〕



フランスの高校生が学んでいる哲学の教科書(草思社文庫 ペ 4-2)

シャルル・ペパン、永田 千奈 著

草思社

哲学は私たちを何から救ってくれるのか、幸せにしてくれるのか。フランスの人気哲学者が、西欧哲学の真髄を明快に解説する。キーワード解説、バカロレア(中等教育修了資格兼大学入試資格)試験対策実践編も収録。

読売新聞 2026/01/25

2025.12./ 220p
978-4-7942-2818-5

¥990〔税込〕





人新世再入門～その本質を多面的にとらえる～

J・A・トーマス、M・ウィリアムズ、J・ザラシェヴィクシュ 著

名古屋大学出版会

人類の活動によってもたらされた新たな地質年代「人新世」。人新世を長大な地球史の流れの中に明快に位置づけ、あらためて地質学的背景から社会的意味まで、系統かつ包括的にわかりやすく解説する。

読売新聞 2026/01/25

2025:11./ 288p
978-4-8158-1216-4

¥3,850〔税込〕



南緯 69 度のチーム南極地域観測隊

原田尚美 著

WAVE 出版

隊員の安全確保が最優先。プロジェクトを成功に導くカギ、信頼関係の構築のために必要なことは？ 女性初の隊長として、南極地域観測隊のチームビルディングに奮闘した著者が、個々の能力を発揮させるリーダーの視点を紹介。

読売新聞 2026/01/25

2025:11./ 170p
978-4-86621-536-5

¥1,760〔税込〕



富士山噴火～その日に備える～(岩波新書 新赤版 2085)

藤井 敏嗣 著

岩波書店

いつ噴火しても不思議ではない活火山である富士山。どんな噴火が起こりえるのか。どう備えるのか。火山学をリードしてきた著者が、富士山の成り立ちとマグマの科学を解説し、噴火への心構えを説く。

日本経済新聞 2026/01/10

2025:10./ 266p
978-4-00-432085-2

¥1,100〔税込〕



日本政治と宗教団体～その実像と歴史的変遷～(朝日新書 1032)

中北浩爾、蔵前勝久 著

朝日新聞出版

創価学会、旧統一教会、神社界、立正佼成会…。政治とのつながりを持つことで、教団はどれだけの力を蓄えていったのか？ 関係者の証言と資料から、戦後政治と宗教のつながりや変遷を解き明かす。

日本経済新聞 2026/01/10

2025:11./ 334p
978-4-02-295344-5

¥1,100〔税込〕



白洲次郎占領を背負った男<上>(講談社文庫)

北 康利 著

講談社

日本でいちばん格好いいといわれている男・白洲次郎。明治 35 年に兵庫県で生まれ、英国へ留学。戦後、吉田茂の側近として日本国憲法制定の現場に立会い大きく関与した。しかし、彼は表舞台には立たずに、在野精神というダンディズムを貫き通すのであった。

日本経済新聞 2026/01/10

2008:12./ 254p
978-4-06-276219-9

¥682〔税込〕





白洲次郎占領を背負った男<下>(講談社文庫)

北 康利 著

講談社

少年のようにスポーツカーをこよなく愛した一方で、戦後いち早く日本の経済的独立を目指し通商産業省創設に奔走。ところが創設後はずっと身を引く。全てが次郎の「紳士の哲学」であった。

日本経済新聞 2026/01/10

2008:12./ 252p
978-4-06-276260-1

¥682〔税込〕



資本主義と闘った男～宇沢弘文と経済学の世界～

佐々木 実 著

講談社

世界から称賛された気鋭の数理経済学者は、なぜ突然「長い沈黙」に入ったのか。経済学の発展に寄与しながら、なぜ経済学を批判するようになったのか。「人々が平和に暮らせる世界」を追求した宇沢弘文の激動の生涯を描く。

日本経済新聞 2026/01/10

2019:3./ 638p
978-4-06-513310-1

¥2,970〔税込〕



天皇機関説タイフーン

平山周吉 著

講談社

この国の節目は昭和十年にあり！台風の如く人々を翻弄し、敗戦に至る日本の行く末を決定した天皇機関説事件。「合法無血のクーデター」ともいわれた事件の真相に迫る。『群像』連載を加筆修正し単行本化。

日本経済新聞 2026/01/10

2025:11./ 460p
978-4-06-541508-5

¥3,080〔税込〕



メ切は破り方が9割

カレー沢 薫 著

小学館

本書に載っている原稿の9割は催促を受けてから書き始めた。メ切はいつの間にか「破れている」ものなのだ-。カレー沢薫のメ切と催促をめぐるエッセイ集。書き下ろしコラムも収録。『小説丸』連載に加筆・改稿。

日本経済新聞 2026/01/10

2025:8./ 207p
978-4-09-389814-0

¥1,760〔税込〕



私たちはどう老いるか(小学館文庫 い61-1)

稲垣 栄洋 著

小学館

静岡大学で雑草学研究室を主宰しながら、植物や生き物の生きざまや死にざまを見て学んだ、人生後半の大事なこと。しっかりと次のステージを迎え、実らせるための、静かで賢い老い方を語る。

日本経済新聞 2026/01/10

2025:12./ 237p
978-4-09-407524-3

¥682〔税込〕





富岡多恵子の革命

島 二 日子 著

中央公論新社

戦後の日本文学史に決定的な影響を与えた詩人であり、作家・評論家でもあった富岡多恵子。夫である現代美術家・菅木志雄のインタビューや関係者への取材をもとに、87年の生涯を辿る。『婦人公論.jp』連載を単行本化。

日本経済新聞 2026/01/10

2025:11./ 365p
978-4-12-005969-8

¥2,750〔税込〕



希望の国のエクソダス(文春文庫)

村上 龍 著

文芸春秋

2002年。一斉に不登校を始めた中学生がネットビジネスを展開し、遂には世界経済を覆した! 閉塞した現代日本を抉る超大型長篇。

日本経済新聞 2026/01/10

2002:5./ 452p
978-4-16-719005-7

¥979〔税込〕



インドの奇跡～マルチ・スズキ不可能への挑戦～

R・C・バルガバ 著

日経B P社

スズキのインド現地法人マルチ・スズキがいかにして日本の経営システムをインドに導入し、それまでにないタイプの企業をつくり上げたかを、経営者との運命的出会いから紐解き解説する。インドビジネス関係者必読の書。

日本経済新聞 2026/01/10

2025:10./ 221p
978-4-296-11655-3

¥2,640〔税込〕



締め切りより早く提出されたレポートはなぜつまらないのか～「先延ばし」と「前倒し」の心理学～(光文社新書 1355)

安達未来 著

光文社

「先延ばし」と「前倒し」、いずれにも長短があり、必ずしも先延ばしが悪く前倒しが良いわけではない。「先延ばし」「前倒し」をしてしまう人の心のメカニズムとそれがもたらす効用を、タスクマネジメントの観点から解明する。

日本経済新聞 2026/01/10

2025:4./ 248p
978-4-334-10619-5

¥990〔税込〕



神と仏の人文地質学～地殻変動で解き明かす日本古代史～(光文社新書 1393)

巽 好幸 著

光文社

神々の神域・熊野を造ったのは、超弩級のマグマ活動だった!? ヤマト王権が奈良盆地で繁栄した背景から、信仰の地である熊野が神秘的な深山蕨鬱の地となった原因、日本で神仏融合が起こった理由まで、地質学の視点から描く。

日本経済新聞 2026/01/10

2025:12./ 332p
978-4-334-10822-9

¥1,122〔税込〕





ニッポンの移民～増え続ける外国人とどう向き合うか～(ちくま新書 1882)

是川 夕 著

筑摩書房

移民は日本にとって救世主なのかリスクなのか。日本は欧米のように分断されるのか。移民なしではこの国はもたないのか。エビデンスを基に、移民政策の歴史と未来について考察し、移民をめぐる議論に一石を投じる。

日本経済新聞 2026/01/10

2025:10./ 250p
978-4-480-07710-3

¥1,012〔税込〕



締切と闘え!(ちくまプリマー新書 504)

島本 和彦 著

筑摩書房

苦しい時こそニヤリと笑え! 締切を守って 40 年。熱血漫画家がスケジュール管理、ピンチを乗り越える方法、そして生き方を語る。付録「カウントダウン book 傑作選」も収録。

日本経済新聞 2026/01/10

2025:10./ 170p
978-4-480-68538-4

¥990〔税込〕



生きづらさについて考える(毎日文庫 う 1-2)

内田 樹 著

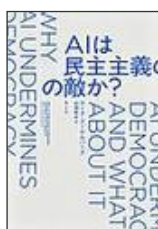
毎日新聞出版

硬直化する日本の社会。とても風通しが悪く、息が詰まりそうだ。誰もが「生きづらさ」を感じている…。思想家・内田樹が日本の閉塞感の原因を解きほぐし、解決のヒントを提示する。文庫版あとがき付き。

日本経済新聞 2026/01/10

2023:1./ 361p
978-4-620-21052-0

¥990〔税込〕



AI は民主主義の敵か?

マーク・クーケルバーク 著

青土社

操作、分極化、差別、監視、権力、抑圧…。これらの手段ではない、すべての人にとっての利益を考え、貢献するコモンズとしての AI の開発およびその利用はいかにして可能か。AI と民主主義の未来を思考するための重要な提言。

日本経済新聞 2026/01/10

2025:11./ 192p
978-4-7917-7749-5

¥2,640〔税込〕



私の名はソリチュード(フィクションの楽しみ)

アンドレ・シュヴァルツ=バルト、中里 まき子 著

水声社

奴隷船での暴力の果てに生まれた孤児は、妊娠中の身でありながらグアドループの森で解放の烽火を灯し…。フランス統治下のカリブ海グアドループに実在した混血のソリチュードを主人公にした小説。

日本経済新聞 2026/01/10

2025:12./ 171p
978-4-8010-0899-1

¥2,750〔税込〕





マスが語る、川の記憶～水辺の生き物と森と人類のつながり～

ビル・フランソワ 著

築地書館

マスたちのからだに残る水の記憶、コイとウサギの世界征服、ウナギの謎…。博物学者・物理学者であり作家でもあるビル・フランソワが、マスの一生を軸に描き出す、水と命の壮大な叙事詩。画像と動画が見られる QR コード付き。

日本経済新聞 2026/01/10

2025:11./ 284p
978-4-8067-1698-3

¥2,640〔税込〕



非常識な数学教室～「なぜ 1+1=2 なのか？」からはじめる～

ユージニア・チェン／熊谷玲美 著

白揚社

1+1=2 だけじゃない。1+1=0 も、1+1=1 も、1+1>2 も、あり!? アメリカで大人気の数学者が、教科書的な計算や公式にとらわれない、自由な発想と独創的な思考のプロセスを鮮やかに語る。

日本経済新聞 2026/01/10

2025:11./ 431p
978-4-8269-0273-1

¥2,970〔税込〕



ことばあそびうた(日本傑作絵本シリーズ)

谷川 俊太郎 著

福音館書店

子どもたちはことば遊びが大好き。「かっぱかっぱらった/かっぱらっぱかっぱらった/とってちってた」文句なしにおもしろい歌が 15 編はあった、みんなでいっしょに楽しめる絵本。

日本経済新聞 2026/01/10

1973:10./ 36p
978-4-8340-0401-4

¥1,100〔税込〕



オカダのジショ

岡田 准一 著

マガジンハウス

30 代から 40 代へ。丁寧に日々を積み重ねてたどりついた、岡田准一の現在。仕事、芝居、クリエイティブ、身体、日々の暮らしについて語る。貴重な私物も収録。『anan』連載を加筆・訂正。

日本経済新聞 2026/01/10

2025:12./ 205p
978-4-8387-3364-4

¥1,980〔税込〕



「風の谷」という希望～残すに値する未来をつくる～

安宅 和人 著

英治出版

都市集中型社会のオルタナティブは可能か？ 自然、インフラ、エネルギー、ヘルスケア、教育、食と農…。データに基づき、様々なテーマをゼロベースで問い直し、壮大なビジョンを提示する。

日本経済新聞 2026/01/10

2025:7./ 912p
978-4-86276-350-1

¥5,500〔税込〕





メ切本<2>

左右社編集部 編

左右社

明治から平成、そして海外まで。幻覚を振り払い、地方に逃亡して、それでも筆を執る作家たち。メ切と堂々と戦ってきたメ切のプロたちの作品を集めたアンソロジー。勇気と慟哭の 80 編。

日本経済新聞 2026/01/10

2017:10./ 386p



ロレックスの経営史～「ものづくり」から「ゆめづくり」へ～

ピエール=イヴ・ドンゼ 著

大阪大学出版会

ロレックスはいかにして時計をステイタスシンボルに変えることに成功したのか。スイス、アメリカ、イギリスの資料から明らかにするとともに、「ものづくり」戦略から「ゆめづくり」戦略へとシフトした過程を検証する。

日本経済新聞 2026/01/10

2025:11./ 240p

978-4-87259-837-7

¥2,970〔税込〕



14歳からの哲学～考えるための教科書～

池田 晶子 著

トランスビュー

今の学校教育に欠けている 14 歳からの「考える」のための教科書。「言葉」「自分とは誰か」「死」「家族」「社会」「理想と現実」「恋愛と性」「メディアと書物」「人生」等 30 のテーマで考えるきっかけを与える。

日本経済新聞 2026/01/10

2003:3./ 209p

978-4-901510-14-1

¥1,320〔税込〕



なぜ人は締め切りを守れないのか

難波優輝 著

堀之内出版

ときに人々を苦しめ、ときに人々を奮い立たせる「締め切り」とは何なのか? 「締め切り」から現代社会に深く埋め込まれたルールを描き出し、豊かな生き方を探る哲学的冒険。

日本経済新聞 2026/01/10

2025:10./ 295p

978-4-911288-20-7

¥1,980〔税込〕



ポストヨーロッパ

ユク・ホイ 著

岩波書店

際限のない消費主義と、各地で激化する保守主義や他者の排除。変わりゆく世界のなか、アジアとヨーロッパのあいだに生きる哲学者が、日本思想との深い対話を経て、<思考の固体化>による哲学の新たな可能性を描き出す。

日本経済新聞 2026/01/17

2025:10./ 244p

978-4-00-061723-9

¥2,860〔税込〕





地雷グリコ

青崎 有吾 著

KADOKAWA

射守矢真兎(いもりや・まと)。女子高生。勝負事に、やたらと強い。平穏を望む彼女が日常の中で巻き込まれる、風変わりなゲームの数々。次々と強者を打ち破る真兎の、勝負の先に待ち受けるものとは-。本格頭脳バトル小説。

日本経済新聞 2026/01/17

2023:11./ 348p
978-4-04-111165-9

¥1,925〔税込〕



殺し屋の営業術

野宮 有 著

講談社

凄腕営業マン・鳥井は、深夜のアポイント先で刺殺体を発見する。金で殺人を請け負う「殺し屋」に口封じとして消されそうになるが、「あなたは幸運です。私を雇いませんか?」と、鳥井は商談を始めて...

日本経済新聞 2026/01/17

2025:8./ 277p
978-4-06-540330-3

¥2,145〔税込〕



加速主義〜ニック・ランドと新反動主義〜 増補新版(星海社新書 362)

木澤佐登志 著

星海社

加速主義の理論的中枢となったニック・ランド、ピーター・ティール、カーティス・ヤーヴィンの思想を剔抉するとともに、その影響下で大望を抱くイーロン・マスクやJ・D・ヴァンスの言動を繙く。

日本経済新聞 2026/01/17

2025:11./ 316p
978-4-06-541695-2

¥1,430〔税込〕



嘘をついたのは、初めてだった(講談社文庫 こ 98-2)

講談社M R C編集部 著

講談社

恋愛、ミステリー、グルメ、ホラー...。最初の嘘で世界が動く! 29人の作家が、「嘘をついたのは、初めてだった」の書き出しからオリジナルの物語を紡ぐショートショート集。

日本経済新聞 2026/01/17

2025:12./ 248p
978-4-06-541843-7

¥726〔税込〕



後継者不足時代の事業承継〜当事者の視点で考える〜(集英社新書 1286)

大塚久美子 著

集英社

人口減少や産業構造の変化により、後継者不足に直面する日本の企業。事業の継続のために必要なことは何なのか。2009年から2020年まで大塚家具の社長を務めた著者が、実体験を交え解決の糸口を提案する。Q&Aも収録。

日本経済新聞 2026/01/17

2025:11./ 235p
978-4-08-721386-7

¥1,034〔税込〕





魔法少女と麻薬戦争<1>(ジャンプコミックス JUMP COMICS+)

メイジメロウ／野宮 有 著

集英社

日本経済新聞 2026/01/17

2025:10./ 200p
978-4-08-884686-6

¥814〔税込〕



ガス灯野良犬探偵団<1>(ヤングジャンプコミックス)

松原 利光、青崎 有吾 著

集英社

19 世紀末ロンドン。路地裏で浮浪児として暮らす少年・リュウイは、とある殺人事件をきっかけにひとりの探偵と出会う。探偵の名は、シャーロック・ホームズ。少年たちの地下街ミステリー叙事詩、開幕!

日本経済新聞 2026/01/17

2023:12./ 208p
978-4-08-893037-4

¥715〔税込〕



天空の都の物語

アンソニー・ドーア／藤井光 著

早川書房

15 世紀のコンスタンティノーブル、現代のアイダホ、未来の宇宙船。紀元 1 世紀に書かれたギリシャの散文物語は訳され、欠けた部分を補われながら、時代と場所を越えて人々をつなぎ、彼らの心の灯となっていき…。

日本経済新聞 2026/01/17

2025:12./ 749p
978-4-15-210489-2

¥4,950〔税込〕



イーロン・マスク<上>

ウォルター・アイザックソン 著

文藝春秋

ペイパル(金融決済)、テスラ(電気自動車)、スペース X(宇宙開発)、そして X…。ときに軋轢を起こすも、テクノロジーで人類を進化させてきたイーロン・マスク。悩める天才の真の姿を赤裸々に描いた公式伝記。

日本経済新聞 2026/01/17

2023:9./ 480p
978-4-16-391730-6

¥2,420〔税込〕



イーロン・マスク<下>

ウォルター・アイザックソン 著

文藝春秋

ペイパル(金融決済)、テスラ(電気自動車)、スペース X(宇宙開発)、そして X…。ときに軋轢を起こすも、テクノロジーで人類を進化させてきたイーロン・マスク。悩める天才の真の姿を赤裸々に描いた公式伝記。

日本経済新聞 2026/01/17

2023:9./ 464p
978-4-16-391731-3

¥2,420〔税込〕





1%の革命～ビジネス・暮らし・民主主義をアップデートする未来戦略～

安野 貴博 著

文藝春秋

東京のアップデート、経済・ビジネスの活性化、これからの医療・防災モデル…。

2024年の東京都知事選で15万票を獲得した著者が、各界の最新トレンドを踏まえた、実装可能な未来ビジョンを伝える。

日本経済新聞 2026/01/17

2025:2./ 287p
978-4-16-391939-3

¥1,760〔税込〕



死者たち

クリスティアン・クラハト／田梓 著

河出書房新社

1932年。甘粕正彦により、日独合作映画の制作が始動した。若き映画監督エミール・ネーグリは日本に送り込まれる。映画に野望を託すふたりの男の欲望は、やがて国家と美の危うい結託に呑み込まれていく。

日本経済新聞 2026/01/17

2025:11./ 214p
978-4-309-20937-1

¥2,640〔税込〕



妄想する頭 思考する手～想像を超えるアイデアのつくり方～

暦本 純一 著

祥伝社

「新しいことを生み出す」には、思考のフレームを意識して外したり、新しいアイデアを形にし、伝えたりするためのちょっとしたコツが必要。そういった思考の方法や発想のコツなどを具体的に紹介する。

日本経済新聞 2026/01/17

2021:2./ 236p
978-4-396-61748-6

¥1,760〔税込〕



ヨーロッパ綺想庭園めぐり～歴史の中の庭を歩く～

桑木野 幸司 著

白水社

神々が遊ぶ聖苑から、政治・科学・文学の重要な舞台としての緑地、“お皿に盛られた”庭や、鉢植え文化まで、王侯貴紳たちの豪勢な「庭園」から読み解く西欧史。

日本経済新聞 2026/01/17

2025:12./ 268p
978-4-560-02487-4

¥3,520〔税込〕



ネット世論の見える支配者～フェイクニュース、アルゴリズム、プロパガンダを操るものの正体～

ルネ・ディレスタ 著

原書房

プロパガンダやフェイクニュースによる煽動はどのように行われるのか。歴史、政治からコミュニケーション理論や社会心理学まで触れながら、オンラインの世界に透明性を確保し民主的にするための道筋を示す。

日本経済新聞 2026/01/17

2025:10./ 544p
978-4-562-07577-5

¥3,300〔税込〕





川村清雄～洋画は盾、日本画は鉾～(ミネルヴァ日本評伝選)

落合 則子 著

ミネルヴァ書房

幕臣の家に生まれ、幼少期から画才を示し、西洋へ留学して研鑽を積み帰国。勝海舟らの庇護のもと、徳川歴代將軍の肖像など数々の傑作を生み出した川村清雄。独自の画風を切り拓いた孤高の天才の生涯を歴史資料にもとづき描く。

日本経済新聞 2026/01/17

2025:12./ 298p
978-4-623-09974-0

¥3,850〔税込〕



柳田国男の民俗学を生きた女性たち～どうしたら人間は学問によって倅せになれるか～

杉本仁 著

新泉社

柳田民俗学が新しい史学の創成から確立にむかった昭和 10 年前後、柳田国男の門を叩いて学問の道を歩き始めた女性たちがいた。柳田を師とし、支えた、女性民俗学者たちの誕生から戦中戦後への足跡をたどる。

日本経済新聞 2026/01/17

2025:11./ 350p
978-4-7877-6337-2

¥3,850〔税込〕



20XX 年の革命家になるには～スペキュラティブ・デザインの授業～

塚田有那 編

長谷川愛 著

ビー・エヌ・エヌ

一人ひとりの「夢想」が未来を救う。社会を変革する手段と方法を、アートやデザインの発想から見出すことを目的とした大学講義を書籍化。書き込み式のワークシート、切り離せる「20XX 年の革命家カード」付き。

日本経済新聞 2026/01/17

2020:1./ 191p
978-4-8025-1171-1

¥3,520〔税込〕



「恥」に操られる私たち～他者をおとしめて搾取する現代社会～

キャシー・オニール、西田 美緒子 著

白揚社

「恥ずかしい」と悩む私たちの気持ちにつけこみ、利益を得ようとする企業や社会システムがある。さまざまな事例を挙げながら、恥がどのように生み出され、利用されているかを分析。人々を苦しめる恥と権力の関係を暴き出す。

日本経済新聞 2026/01/17

2025:12./ 317p
978-4-8269-0274-8

¥3,080〔税込〕



PLURALITY～対立を創造に変える、協働テクノロジーと民主主義の未来～(サイボウズ式ブックス)

オードリー・タン／E・グレン・ワイル 著

ライツ社

社会的差異を越えたコラボレーションのための新たな社会のビジョン、PLURALITY。台湾をはじめとする豊富なデジタル民主主義の実践事例を通じ、権利、通貨、政策など、起こり得る未来を解説する。

日本経済新聞 2026/01/17

2025:5./ 619p
978-4-909044-57-0

¥3,300〔税込〕





EU～統治の論理と思想～(岩波新書 新赤版 2089)

庄司 克宏 著

岩波書店

イギリスの離脱、移民や難民の増大、極右勢力の台頭、多様化する性…。「壮大な実験」EUはどこへ向かうのか。超国家的統合の実態や意義を明解に説いた「欧州連合」を大幅改訂し、これからの国際社会を展望する。

日本経済新聞 2026/01/24

2025:11./ 270p
978-4-00-432089-0

¥1,100〔税込〕



ナポレオン狂(講談社文庫)

阿刀田 高 著

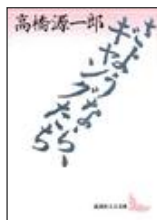
講談社

自らナポレオンの生まれ変りと信じ切っている男、はたまたナポレオンの遺品を完璧にそろえたいコレクター。その両者を引き合わせた結果とは？ ダール、スレッサーに匹敵する短篇小説の名手が、卓抜の切れ味を発揮した直木賞受賞の傑作集。

日本経済新聞 2026/01/24

1982:7./ 279p
978-4-06-136235-2

¥715〔税込〕



さようなら、ギャングたち(講談社文芸文庫)

高橋 源一郎 著

講談社

詩人の「わたし」と恋人の「S・B(ソング・ブック)」と猫の「ヘンリー4世」が営む超現実的な愛の生活を独創的な文体で描く。

日本経済新聞 2026/01/24

1997:4./ 381p
978-4-06-197562-0

¥1,870〔税込〕



風の歌を聴け(講談社文庫)

村上 春樹 著

講談社

1970年夏、あの日の風は、ものうく、ほろ苦く通りすぎていった。僕たちの夢は、もう戻りはしない。青春の一片を乾いた軽快なタッチで捉えた出色のデビュー作。群像新人賞受賞。

日本経済新聞 2026/01/24

2004:9./ 160p
978-4-06-274870-4

¥638〔税込〕



太平洋戦争と銀行～なぜ日本は「無謀な戦争」ができたのか～(講談社現代新書 2796)

小野圭司 著

講談社

満洲を、台湾を、朝鮮を、樺太を、本土を、銀行員たちは決死の覚悟で駆けめぐっていた! 植民地経営から戦費調達、敗戦後の「清算」まで、銀行員たちが奮闘した、知られざる「戦争の舞台裏」を明かす。

日本経済新聞 2026/01/24

2025:11./ 270p
978-4-06-541706-5

¥1,155〔税込〕





大大阪という神話～東京への対抗とローカリティの喪失～(中公新書 2885)

長崎 励朗 著
中央公論新社

1920～30年代、日本最大の都市だった「大大阪」大阪市。しかし東京に対抗することで、その独自性を喪失し…。吉本興業、職業野球、宝塚歌劇など多様な切り口を通じて、その軌跡を追い、日本社会の均質性の問題を照らす。

日本経済新聞 2026/01/24

2025:12./ 232p
978-4-12-102885-3

¥1,034〔税込〕



日本医師会の正体～なぜ医療費のムダは減らないのか～

杉谷剛 著
文藝春秋

頻回診療、二重三重の請求、便乗値上げ、巨額ワクチン補助金…。日本医師会が「票とカネ」を武器に政治家を動かし、「医療の値段」の決定に大きな影響力を及ぼしている実態を明らかにする。『東京新聞』連載を基に書籍化。

日本経済新聞 2026/01/24

2025:11./ 351p
978-4-16-392039-9

¥2,200〔税込〕



ドル覇権が終わるとき～インサイダーが見た国際金融「激動の70年」～

ケネス・ロゴフ／村井章子 著
日経B P社

1世紀にわたり基軸通貨として世界経済を支配してきたドル。元 IMF チーフエコノミストが、基軸通貨ドルの歴史を振り返り、ドル覇権の時代が曲がり角を迎え、低金利時代が終わって金融危機のリスクが高まったことを警告する。

日本経済新聞 2026/01/24

2025:11./ 513p
978-4-296-00183-5

¥4,400〔税込〕



再誕の書

チャイナ・ミエヴィル／キアナ・リーブス 著
河出書房新社

殺戮の運命に呪われ、8万年を生きる異形の狂戦士ウヌテは生に疲れ、死を切望していた。アメリカ政府の特殊機関<ユニット>は、その秘密を解き明かすべく退行催眠によって彼の記憶に潜り込み…。名優×巨匠が紡ぐ暗黒叙事詩。

日本経済新聞 2026/01/24

2025:10./ 498p
978-4-309-20936-4

¥4,290〔税込〕



カラマーゾフの兄弟<1>(光文社古典新訳文庫)

ドストエフスキー 著
光文社

世界の深みにずっと入り込める翻訳をめざして……。流れ、勢いこそ『カラマーゾフ』の神髄だ。自分の課題として受けとめた今回の亀山郁夫訳は、作者の壮絶な「二枚舌」を摘出する。

日本経済新聞 2026/01/24

2006:9./ 443p
978-4-334-75106-7

¥796〔税込〕





カラマーゾフの兄弟<2>(光文社古典新訳文庫)

ドストエフスキー 著

光文社

死の床にあるゾシマ長老が残す、輝く言葉の数々。長老の驚くべき過去が、明らかにされる。イワンが語る物語詩「大審問官」の本当の意味。少女の一滴の涙は、世界の救済と引き換えにできるか。

日本経済新聞 2026/01/24

2006:11./ 501p
978-4-334-75117-3

¥859〔税込〕



虫めづる姫君～堤中納言物語～(光文社古典新訳文庫 KA シ 1-1)

光文社

風流な貴公子の失敗談「花を手折る人(花桜折る中将)」、年ごろなのに夢中になるのは虫ばかりの姫「あたしは虫が好き(虫めづる姫君)」…。平安人の息遣いが蘇る物語集。訳者エッセイを各篇に収録。

日本経済新聞 2026/01/24

2015:9./ 265p
978-4-334-75318-4

¥946〔税込〕



人を動かす 改訂新装版

D・カーネギー 著

創元社

人が生きていく上で身につけるべき「人間関係の原則」を、実例豊かに説き起こした不朽の書。現代にそぐわない人物や出来事を削除し、原典に忠実に戻すと同時に、最小限の修正を加えた改訂新装版。文庫も同時刊行。

日本経済新聞 2026/01/24

2023:9./ 350p
978-4-422-10093-7

¥2,200〔税込〕



アイアコッカ～わが闘魂の経営～

リー・アイアコッカ 著

ダイヤモンド社

日本経済新聞 2026/01/24

1985:1./ 446p



マネジメント～基本と原則～ エッセンシャル版

P.F.ドラッカー 著

ダイヤモンド社

ドラッカー経営学の集大成を凝縮。指針とすべき役割・責任・行動を示し、新しい目的意識と使命感を与える書。1975年刊「抄訳マネジメント」を改訂改題して新たに論文を加えたエッセンシャル版。

日本経済新聞 2026/01/24

2001:12./ 302p
978-4-478-41023-3

¥2,200〔税込〕





ブランド・ポートフォリオ戦略～事業の相乗効果を生み出すブランド体系～

デービッド・A. アーカー、阿久津 聡 著
ダイヤモンド社

事業戦略を強化し実現するには、どのようにブランド・ポートフォリオを最適化し、活用するか。個別ブランドを超えて、ブランド間の関係性に着目し、複数ブランドの全体最適を実現する戦略論を展開する。

日本経済新聞 2026/01/24

2005:7./ 428p
978-4-478-50241-9

¥4,180〔税込〕



モチーフで読む浮世絵(ちくま文庫 ひ 35-1)

日野原健司 著
筑摩書房

浮世絵専門美術館の学芸員が、有名作品や怖い絵、不思議な絵などを取り上げ、描かれるモチーフを読み解きながら、江戸の人びとの暮らしや風俗を案内する。127点の作品をカラーで掲載。『web ちくま』連載を加筆、再構成。

日本経済新聞 2026/01/24

2025:12./ 221p
978-4-480-44079-2

¥1,210〔税込〕



ビジネスとしての宗教

ポール・シーブライト 著
東洋経済新報社

宗教はなぜこれほど強大な力を持っているのか。経済学的視点から宗教を考察。プラットフォームとしての機能に着目し、宗教活動の源泉に迫る。権力の乱用が生まれる組織構造とその対応策も解明。

日本経済新聞 2026/01/24

2025:11./ 544p
978-4-492-22434-2

¥3,960〔税込〕



ブラック・スノウ～東京大空襲と原爆投下への道～

ジェームズ・M.スコット 著
みすず書房

アメリカの軍事史家が、各種の記録と日米をまたぐ調査をもとに、1945年の東京大空襲とその余波を克明に再現する歴史ノンフィクション。米陸軍航空軍の発展史、指揮官カーティス・ルメイの肖像なども詳述する。

日本経済新聞 2026/01/24

2025:12./ 496p
978-4-622-09811-9

¥4,620〔税込〕



WORK DESIGN～行動経済学でジェンダー格差を克服する～

イリス・ボネット 著
N T T 出版

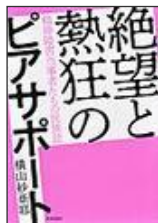
「慣行とプロセスを変える」「能力を築く」「リスクのある環境のバイアスを緩和する」…。ハーバードの女性行動経済学者が、男女平等を実現するためのステップを、科学的な知見に基づいて解説する。

日本経済新聞 2026/01/24

2018:7./ 435p
978-4-7571-2359-5

¥2,970〔税込〕





絶望と熱狂のピアサポート～精神障害当事者たちの民族誌～

横山紗亜耶 著

世界思想社

絶望的なまでに健常者中心の社会を、熱狂的な<お祭り>でかき乱す、横浜ピアスタッフ協会。「ピアになる」瞬間を追い求める当事者たちの活動、法人化への葛藤などを記すノンフィクション。テキストデータ引換券付き。

日本経済新聞 2026/01/24

2025:11./ 301p
978-4-7907-1803-1

¥2,970〔税込〕



HUMANISE～建築で人間味のある都市をつくる～

トーマス・ヘザウィック、牧尾 晴喜 著

草思社

私たちのほとんどが、都市に深刻な問題があると感じている。世界で最も想像力豊かなデザイナーが、人々を病ませ、地球を傷つける建物に囲まれている理由と、それらをすべての人にとってより良いものにする方法を分析する。

日本経済新聞 2026/01/24

2025:12./ 495p
978-4-7942-2808-6

¥4,950〔税込〕



GIVE&TAKE「与える人」こそ成功する時代

アダム・グラント、楠木 建 著

三笠書房

「GIVE&TAKE」という“常識”はこれからの時代に通用するのか。ギバー(惜しみなく与える人)、テイカー(自分の利益を優先させる人)、マッチャー(損得のバランスを考える人)、それぞれの特徴と可能性を分析する。

日本経済新聞 2026/01/24

2014:1./ 382p
978-4-8379-5746-1

¥1,980〔税込〕



東大「芸術制作論」講義～手を動かし知をつかむ、創発のポイエーシス～

村山悟郎 著

フィルムアート社

制作の回路を獲得せよ！アーティスト＝研究者・村山悟郎が東大での講義を元に、生成 AI 全盛の今、みずから手で制作することにはどんな意味があるのかを問う。レクチャーと実践的に「制作知」を体得できるワークを収録。

日本経済新聞 2026/01/24

2025:12./ 349p
978-4-8459-2517-9

¥2,860〔税込〕



ティール組織～マネジメントの常識を覆す次世代型組織の出現～

フレデリック・ラルー 著

英治出版

上下関係も、売上目標も、予算もない!? 従来のアプローチの限界を突破し、圧倒的な成果をあげる先駆的な組織を分析。その結果から導き出した組織論の新しいコンセプト「進化型(ティール)組織」について解説する。

日本経済新聞 2026/01/24

2018:1./ 589p
978-4-86276-226-9

¥2,750〔税込〕





FSB ロシア連邦保安庁～沿革・任務・機構～

ケヴィン・P.リール、並木 均 著

作品社

KGB の後継組織で、かつてプーチンも長官を務めた FSB(ロシア連邦保安庁)は、ロシアの国策にも影響を与える強大な力を持つに至った。長らく米政府で分析官を務めた専門家が、ロシア原語の資料を豊富に用いて分析する。

日本経済新聞 2026/01/24

2025:11./ 277p
978-4-86793-123-3

¥2,970〔税込〕



いま、息をしている言葉で。～「光文社古典新訳文庫」誕生秘話～

駒井 稔 著

而立書房

ドストエフスキー、カント、親鸞...なぜ、21 世紀に古典が蘇ったのか!? 「古典にこそ読書の醍醐味はある」という信念のもと、古典を文庫シリーズとして刊行する企画を立ち上げた、光文社古典新訳文庫・創刊編集長の奮戦記。

日本経済新聞 2026/01/24

2018:10./ 373p
978-4-88059-410-1

¥2,200〔税込〕



疑似科学から科学をみる

マイケル・D. ゴーディン 著

岩波書店

占星術や錬金術、骨相学、優生学、創造論、心霊研究、水の記憶....。「疑似科学とは何か」をめぐる繰り返されてきた論争を事例ごとに振り返り、科学の本質を考え直す。読書案内も収録。

日本経済新聞 2026/01/31

2025:11./ 174p
978-4-00-061728-4

¥2,310〔税込〕



時の家

鳥山まこと 著

講談社

青年は描く。その家の床を、柱を、天井を、タイルを、壁を、そこに刻まれた記憶を。目を凝らせば無数の細部が浮かび、手をかざせば塗り重ねられた厚みが胸を突く。ある家の記憶を紡いだ小説。『群像』掲載を単行本化。

日本経済新聞 2026/01/31

2025:10./ 139p
978-4-06-541227-5

¥2,090〔税込〕



知性の未来～脳はいかに進化し、AI は何を変えるのか～

マックス・ベネット 著

新潮社

40 億年前の DNA の誕生から、人間の脳が言語を発明するまで、生命の壮大な歴史を、AI の最新の研究成果と比較しながら辿り直し、5 つのブレイクスルーが知性を発展させてきたことを解き明かす。

日本経済新聞 2026/01/31

2025:11./ 544p
978-4-10-356551-2

¥3,960〔税込〕





ビル・ゲイツ自伝<1> SOURCE CODE 起動

ビル・ゲイツ 著

早川書房

マイクロソフト共同創業者にして世界有数の資産家であり慈善活動家のビル・ゲイツが、知られざる原点を自ら語る。1 は、1955 年の誕生から、マイクロソフト創業期までの軌跡を描く。

日本経済新聞 2026/01/31

2025:12./ 410p
978-4-15-210485-4

¥2,970〔税込〕



世界の一流は「休日」に何をしているのか〜年収が上がる週末の過ごし方〜

越川慎司 著

インプレス

どのような休日を過ごせば、心身のリフレッシュを図って、仕事のパフォーマンスを高めることができるのか? 世界の一流ビジネスパーソンの休日の過ごし方から、「休み方改革」のための具体的なアクションを紹介する。

日本経済新聞 2026/01/31

2024:11./ 204p
978-4-295-41030-0

¥1,738〔税込〕



マテニ 10 号<上>

黄 哲暎 著

白水社

鉄道は朝鮮の民の血と涙でできている。近代の到来、そして日本による植民地支配の象徴でもあった鉄道。闘う産業労働者たちと鉄道員一家 4 代の、朝鮮半島における 100 年の物語を描く。2024 年国際ブッカー賞最終候補作。

日本経済新聞 2026/01/31

2025:12./ 326p
978-4-560-09197-5

¥2,530〔税込〕



マテニ 10 号<下>

黄 哲暎 著

白水社

そのときは負けているように見えても、結局は弱い者が勝つようになっているんだよ。朝鮮半島から満洲へのびる鉄道、離散の運命、分断を越えてつながる家族…。それぞれの闘いを描く。2024 年国際ブッカー賞最終候補作。

日本経済新聞 2026/01/31

2025:12./ 332p
978-4-560-09198-2

¥2,530〔税込〕



明治維新という建国神話〜「版籍奉還」とは何だったのか〜(歴史文化ライブラリー 628)

青山 忠正 著

吉川弘文館

討幕の後に成立した明治政府は、開明政策を推進して統一国家を建設した。この日本近代の建国神話はどのようにして生み出されたのか。国家が編纂した建国神話を解体し、明治維新史を「皇国史観」の呪縛から解き放つ。

日本経済新聞 2026/01/31

2026:1./ 280p
978-4-642-30628-7

¥2,200〔税込〕





不夜脳～脳がほしがる本当の休息～

東島威史 著
サンマーク出版

脳の回復には、睡眠より「刺激」！脳への「刺激」と「癒し」の最新知見をもとに、生活の質を上げ、仕事のパフォーマンスを上げる脳の本当の休息方法を具体的に紹介する。

日本経済新聞 2026/01/31

2025:9./ 239p
978-4-7631-4248-1

¥1,650〔税込〕



撮られる女/撮る女～フェミニズム映画批評の可能性～

斉藤綾子 著
青弓社

映画はその誕生から常に男性主体のまなざしによって構築され、受容されてきた。フェミニズム映画理論の視点から古今東西の映画を展望し、映画とジェンダーに通底する問題群を照らし出して批評の可能性を探る。

日本経済新聞 2026/01/31

2025:12./ 299p
978-4-7872-7482-3

¥3,300〔税込〕



疲れしない心をつくる休息の作法～禅が教えてくれる～

枡野 俊明 著
三笠書房

「禅的生活」には、心身を健やかにするための、たくさんの実践的な知恵が詰まっている。疲れる「前」にしっかり休む。心と体の上手な「リセット」習慣など、人生に“余白”をつくるヒントを伝える。

日本経済新聞 2026/01/31

2025:12./ 222p
978-4-8379-4065-4

¥1,650〔税込〕



左川ちか全集

島田龍／島田龍 編
左川ちか／左川ちか 著
書肆侃侃房

詩人・翻訳家として将来を嘱望されたが24歳で亡くなった左川ちか。萩原朔太郎や西脇順三郎らに激賞された現代詩の先駆者のすべての詩・散文・書簡、翻訳を収録。編者による年譜・解題・解説を付す。

日本経済新聞 2026/01/31

2022:5./ 414p
978-4-86385-517-5

¥3,080〔税込〕



血と芸～非世襲・女方役者の覚悟～

河合 雪之丞 著
太陽出版

中学卒業後、一般家庭から歌舞伎の世界へ。血の壁を越えて、主役の女方として歌舞伎座の舞台に立ち、その後、新派へ転身。市川春猿として、河合雪之丞として、己の芸を磨き続けた女方役者が半生を綴る。

日本経済新聞 2026/01/31

2025:11./ 239p
978-4-86723-206-4

¥1,870〔税込〕





うらざり長屋

高瀬 乃一 著

角川春樹事務所

怠け者の母親を内職で支える娘、盗みに手を染めた元大工、男を待ち続ける女…。どん底を生き抜く人々の哀感と優しさを描いた、江戸・本所の貧乏長屋が舞台の連作短篇。『ランティエ』連載を加筆修正。

毎日新聞 2026/01/04

2025:12./ 274p
978-4-7584-1497-5

¥1,870〔税込〕



猿

京極 夏彦 著

KADOKAWA

「猿がいる」と言い出した同居人。かすかに感じる、妙な気配。曾祖母の遺産相続。岡山県山中の限界集落。よく判らない違和感…。恐怖の本質に迫る長編小説。『怪と幽』連載に大幅な書き下ろしを加えて単行本化。

毎日新聞 2026/01/04、読売新聞 2026/01/25

2025:12./ 363p
978-4-04-115719-0

¥2,200〔税込〕



シリアの家族

小松由佳 著

集英社

シリアの沙漠で出会った総勢 70 人の大家族。シリア難民の妻、そして二児の母となった写真家が、激動のシリアを生きた市井の人々の、等身大の姿を描くノンフィクション。『kotoba』連載を大幅に加筆修正・再構成。

毎日新聞 2026/01/10

2025:11./ 316p
978-4-08-781773-7

¥2,420〔税込〕



粹〜北の富士勝昭が遺した言葉と時代〜

藤井康生 著

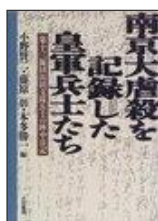
集英社

52 代横綱・北の富士勝昭。その「粹」な言動や佇まいは追隨を許さない存在だった。25 年間タッグを組んだ元 NHK 大相撲中継アナウンサーが、土俵と人を愛した「昭和の粹人」の生涯を記す。舞の海秀平との対談も収録。

毎日新聞 2026/01/10

2025:11./ 254p
978-4-08-788124-0

¥1,980〔税込〕



南京大虐殺を記録した皇軍兵士たち〜第十三師団山田支隊兵士の陣中日記〜

小野 賢二、藤原 彰、本多 勝一 編

大月書店

1 万数千にのぼる捕虜の処理にかかわった兵士達を書き綴った日記には、どんな事実が記されていたか…。旧日本兵とその遺族を訪ね歩く粘り強い探索によって発掘された資料から、歴史の実像がここによみがえる。

毎日新聞 2026/01/10

1996:3./ 382p
978-4-272-52042-8

¥6,600〔税込〕





歴史のなかの奇妙な仕事

ニコラ・メラ 著

原書房

吸血鬼ハンター、錬金術師、目覚まし屋、サイコロ飲み…。古代ローマから近代までの今はなき危険で珍妙な仕事の数々を紹介。生と死、職業と人類の進化、当時の社会背景が仕事から浮かび上がる。

毎日新聞 2026/01/10

2025:12./ 310p
978-4-562-07583-6

¥2,970〔税込〕



虚弱に生きる

絶対に終電を逃さない女 著

扶桑社

20代にして老人並の身体。労働する体力も恋愛する元気もない。病気ではない。でも、こんなにも生きるハードルが高い。虚弱体質で生きるリアルをつづった、新時代のサバイバル・エッセイ。

毎日新聞 2026/01/10

2025:11./ 222p
978-4-594-10093-3

¥1,760〔税込〕



クロコダイルに魅せられて

福田 雄介 著

みすず書房

オーストラリアの政府機関で野生ワニの保全に全力を尽くす、唯一無二のワニ研究者はいかにして誕生したのか。淡々とした筆致ながらも、熱い思いがじっくりと伝わるワニ研究エッセイ。『みすず』連載に書き下ろしを加え書籍化。

毎日新聞 2026/01/10

2025:11./ 208p
978-4-622-09824-9

¥2,860〔税込〕



風の人 山野井妙子

柏 澄子 著

山と溪谷社

国内外の難壁を次々に登攀していった山野井妙子。夫の泰史と出会い、ふたりで過酷な山に挑む。穏やかで動じない「風」のような心のありようと、その人生の軌跡を浮き彫りにする。『山と溪谷』連載に加筆・修正。

毎日新聞 2026/01/10

2025:11./ 319p
978-4-635-17216-5

¥1,980〔税込〕



開運えんぎもの図鑑

高野 紀子 著

あすなろ書房

どうして「赤」はおめでたい？ 武士に人気だった昆虫とは？ 福だるま、お節料理、飾り熊手、招き猫、おめでたい数など、全 250 種の縁起ものを、イラストで紹介する。

毎日新聞 2026/01/10

2025:11./ 45p
978-4-7515-3267-6

¥1,760〔税込〕





一人娘

グアダルペ・ネットテル 著

現代書館

20 代のころ、「子どもは産まない」と誓い合ったラウラとアリナ。ラウラはその意志を貫くが、アリナは結婚し、子どもを身ごもる。やがてアリナにイネスという子が生まれるが、イネスには重度の障害があつて...

毎日新聞 2026/01/10

2025:11./ 270p
978-4-7684-5983-6

¥3,080〔税込〕



日本語はひとりでは生きていけない

大岡 玲 著

集英社インターナショナル

ヤマト王権における漢字の導入から J-POP の歌詞まで。日本語の歴史は、漢字への原点回帰と反発、英語への憧憬と揺り戻しという相克の歴史だった。移ろいゆく世界に対応し、今も変化し続ける融通無碍な日本語の来歴に迫る。

毎日新聞 2026/01/10

2025:6./ 443p
978-4-7976-7463-7

¥2,970〔税込〕



呪いのウサギ(竹書房文庫 ぼ 2-1)

チョン・ボラ 著

竹書房

親友がライバル会社の策略によって自殺。呪物を作る男が復讐のために作ったウサギは、ライバル会社のすべてをかじり尽くし...。表題作をはじめ、孤独に寄りそう“恐怖”と、その先に待つ美しく甘美な破滅を描いた異色短篇集。

毎日新聞 2026/01/10

2025:12./ 311p
978-4-8019-4741-2

¥1,760〔税込〕



パリで見つけた小田原城(わたしの旅ブックス 066)

萩原 さちこ 著

産業編集センター

ヴェルサイユ宮殿は、まるで二条城の二の丸御殿？ フランスを歩くと、日本の城が見えてくる！ 古城、宮殿、城塞都市、要塞...。城郭ライターが欧州を巡り、マニアならではの視点で日欧の城と街を味わう。

毎日新聞 2026/01/10

2025:12./ 279p
978-4-86311-470-8

¥1,760〔税込〕



現代ストリップ入門

武藤大祐／夏堀うさぎ 著

書肆侃侃房

第二次大戦直後に生まれ、つねに変容してきたストリップ。座談会、インタビュー、論考、ルポ、エッセイ、漫画などで、ストリップの現在に多様な視点からアプローチする。読書案内、踊り子のカラー口絵も収録。

毎日新聞 2026/01/10

2025:10./ 311p
978-4-86385-705-6

¥2,530〔税込〕





徳兵衛はん〜句集〜

間村 俊一 著

書肆アルス

早春のリスボンに靴紐結ぶ かにかくにオフェリア殺し蚯蚓鳴く 番町のその坂くだる春日傘 オシリスも連れて吉野は花の山 冬木立あゝぼくはもうこゝで降りるよ
第3句集。

毎日新聞 2026/01/10

2025:10./ 237p
978-4-907078-48-5

¥4,180〔税込〕



地質学者のように考える〜タイムフルネス、新たな時間認識〜

マーシャ・ビョーネルード／江口あとか 著

築地書館

地質学者が描き出す地球の過去とは。山脈の形成や侵食のような遅いプロセスと、地震や火山のような速いプロセスが重なり合う多様な時間とは-。地質学者とともに壮大な地球の時間をたどり、未来につながる地球と時間を考える。

毎日新聞 2026/01/10、日本経済新聞 2026/01/17

2025:11./ 254p
978-4-8067-1693-8

¥2,970〔税込〕



ことばで愛し、ことばでたたかう〜日本文学の宝石箱〜(岩波ジュニア新書 1003)

持田 叙子 著

岩波書店

自分の心に正直に生きるのが、今よりも難しかった明治・大正・昭和。恋歌パワーで女子を解き放った与謝野晶子、恋愛とキスを輸入した森鷗外など、激動の時代にも流されずに生きた5人の文豪たちのことばの輝きを紹介します。

毎日新聞 2026/01/17

2025:8./ 238p
978-4-00-501003-5

¥1,056〔税込〕



言語学者、生成AIを危ぶむ〜子どもにとって毒か薬か〜(朝日新書 1024)

川原 繁人 著

朝日新聞出版

生成AIと人間の言語システムには決定的な違いがある。それにもかかわらず、言語習得過程にある子どもたちに「おしゃべりする生成AI」が手渡されようとしている。二児の父でもある言語学者が、危機感を込めて警鐘を鳴らす。

毎日新聞 2026/01/17

2025:10./ 263p
978-4-02-295338-4

¥1,045〔税込〕



ルポ過労シニア〜「高齢労働者」はなぜ激増したのか〜(朝日新書 1031)

若月 滯子 著

朝日新聞出版

やりがい、社会参加、生涯現役…。美談にされがちな「働くシニア」の現実は、不利な条件で労働せざるを得ないケースが少なくない。気鋭のジャーナリストが、高齢労働者に密着し、その素顔と社会に潜む歪みを照らし出す。

毎日新聞 2026/01/17

2025:11./ 220p
978-4-02-295342-1

¥957〔税込〕





自己との対話～社会学者、じぶんの AI と戦う～(集英社新書 1293)

吉見俊哉 著

集英社

社会学の大家が、自らの著作・論文をすべて AI に学習させ「AI 吉見くん」を制作。“彼”と「社会学」「大学」「日本の都市」「世界情勢」をめぐり対話した試みを通して、AI 時代に人間が身につけるべき知性を明らかにする。

2025.12./ 329p
978-4-08-721393-5

¥1,210〔税込〕



毎日新聞 2026/01/17



上沼恵美子の人生笑談白黒つけましょ

上沼 恵美子 著

文藝春秋

嫁姑問題、子どもの将来、夫への不満…。果たして、読者の人生相談に「白黒ハッキリつける」上沼恵美子の答えは？ くすすと笑えて、スッキリする“痛快回答”全 41 本を収録。『週刊文春』連載に一部加筆修正して単行本化。

2025.11./ 255p
978-4-16-392038-2

¥1,760〔税込〕



毎日新聞 2026/01/17



自然のものはただ育つ

イーユン・リー、篠森 ゆりこ 著

河出書房新社

生きることは自然な流れ。でも私やうちの子どもたちにとっては決してそうではない。10 代の息子 2 人を自死で失った作家が、悲しみを超える「人生の極み」について綴る。

2025.11./ 194p
978-4-309-20938-8

¥2,640〔税込〕



毎日新聞 2026/01/17



自分の中に毒を持て～あなたは“常識人間”を捨てられるか～(青春文庫 お-50)

岡本 太郎 著

青春出版社

瞬間瞬間を生きているか。ほんとうの自分を貫いているか。「才能なんて勝手にしやがれだ」「ダメ人間なら、そのマイナスに賭けてみる」今も鋭く問いかける、生涯芸術家岡本太郎からのメッセージ。カラー口絵付き。

2017.12./ 246p
978-4-413-09684-3

¥990〔税込〕



毎日新聞 2026/01/17



世界の名木と伝説図鑑

コリン・ソルター／大山晶 著

原書房

世界最古のブリッスルコーンパイン、ニュートンのリンゴの木、9.11 を生き延びた木…。世界各地の巨木や記念樹、物語になった木、災害や戦禍を生き延びた木を、文化的・歴史的背景とともに美しい写真で紹介する。

2025.12./ 222p
978-4-562-07588-1

¥5,280〔税込〕



毎日新聞 2026/01/17



あなたとわたしの短歌教室

服部 真里子 著

山川出版社

光景だけを書いた短歌、オノマトペをひとつ入れた短歌…。5つの課題をこなすことで、自然に「いい短歌=おもしろい短歌」がつかれるようになる短歌講座を書籍化。短歌の基本的なルールも説明する。

毎日新聞 2026/01/17

2025:12./ 196p
978-4-634-15262-5

¥1,760〔税込〕



古本屋という仕事〜スローリーディング宣言!〜

澄田喜広 著

青弓社

古本の魅力、仕入れ方法、独自の陳列、販売の基礎、店づくり、開業する心構え。出版物を生かし続ける、よみた屋流の古本屋経営をガイド。自分だけの愛読書をもとうという「スローリーディング宣言」の書。

毎日新聞 2026/01/17

2025:11./ 219p
978-4-7872-9281-0

¥2,420〔税込〕



レシタティフ(lamlamlam)

トニ・モリスン／篠森ゆりこ 著

晶文社

施設で出会った黒人と白人の少女は、ダイナー、スーパー、デモ集会、レストランで再会する。ノーベル文学賞作家トニ・モリスンが唯一書き残した実験小説。ゼイディー・スミスによる序文も収録。

毎日新聞 2026/01/17

2025:12./ 125p
978-4-7949-8035-9

¥2,090〔税込〕



エレクトクラシー・エピストクラシー・ロトクラシー〜代表制デモクラシーを再考する〜

山口 晃人 著

名古屋大学出版会

いまや様々な批判にさらされている、選挙による議員の選出。より望ましい政体として何がありうるのか。有力視される抽選代表政や知者代表政と比較し、混合システムとしての新たな構想を提示する。

毎日新聞 2026/01/17

2025:12./ 358p
978-4-8158-1217-1

¥5,940〔税込〕



長谷川テル著作集〜中国で反戦活動をしたエスペランチスト〜

長谷川テル研究会 編

長谷川 テル 著

三和書籍

反戦平和のために闘ったエスペラント作家、長谷川テル。著書として出版された主著「戦う中国で」「嵐の中からささやく声」をはじめ、日本時代と中国時代の著作を、執筆年代順に収録する。習作、手紙などの資料も掲載。

毎日新聞 2026/01/17

2025:9./ 840p
978-4-86251-617-6

¥7,150〔税込〕





康仁徳と対北朝鮮インテリジェンス～韓国知日派知識人のオーラルヒストリー～

小針 進 編

同時代社

大韓民国第24代統一部長官を務めた、北朝鮮情報の第一級の分析家・康仁徳が、南北関係をめぐる秘史を語る。日韓国交正常化60周年を迎え、両国の政治・外交関係の重要性を照射する貴重な記録。

毎日新聞 2026/01/17

2025:10./ 792p
978-4-88683-998-5

¥8,580〔税込〕



建築のラグジュアリー～物質と構築がつむぐ建築史～

加藤 耕一 著

東京大学出版会

時間変化にさらされる「物質(モノ)」としての建築と、時間をこえて生き続ける「建てる技芸(アート)」としての建築。ふたつの視点から西洋建築の歴史をとらえなおし、真に豊かな建築文化のありかを示す。

毎日新聞 2026/01/17、読売新聞 2026/01/25

2025:11./ 386p
978-4-13-061146-6

¥3,960〔税込〕



ウクライナ文化の挑戦～激動の時代を越えて～

赤尾 光春、原田 義也 編

ヴィクトリア・アメーリナ、池澤 匠、池田 嘉郎、上村 正之、大野 斉子、岡部 芳彦、クセニア・オクサミトナ、梶山 祐治、加藤 直樹、アメリア・グレイザー、熊野谷 葉子、鴻野 わか菜、ユリヤ・ジャブコ、イーホル・ダツェンコ、田上 雄大、沼野 恭子、原 真咲、平野 高志、オリガ・ホメンコ、ミコラ・リャブチュク 著

幻戯書房

民俗、習慣、言語活動、文学、音楽、芸術の諸領域におよぶウクライナの文化実践の動向を学際的に考察。「ロシア世界」からの解放へと向かうウクライナ文化の最前線を総展望する、ウクライナ文化論集。

毎日新聞 2026/01/17、日本経済新聞 2026/01/24

2025:12./ 498p
978-4-86488-335-1

¥5,280〔税込〕



もうコメは食えなくなるのか～国難を乗り切るのにほんとうに大切なものとは～(講談社+α新書 860-3C)

鈴木宣弘 著

講談社

動乱と危機の時代のまっただ中で、日本はいかにして食料安全保障を強化して備えていくべきなのか。有機米給食、耕作放棄地再生、都市型農業、居酒屋自給圏…。日本人が飢餓の近未来を回避するための道標を提示する。

毎日新聞 2026/01/24

2025:11./ 187p
978-4-06-541726-3

¥1,045〔税込〕





名著でひらく男性学～<男>のこれからを考える～(集英社新書 1285)

杉田俊介、西井開 著

集英社

オジサンはキモい？ 男の子が雑に扱われる？ 批評家、研究者、実践者など4人が集まり、それぞれの視点から男性学の「名著」を持ち寄り、内容を紹介・解説した後、存分に語り合った記録。トーク・イベントを書籍化。

2025.10./ 238p
978-4-08-721385-0

¥1,089〔税込〕



毎日新聞 2026/01/24



となりのクリハラリス～たくましい開拓者から学ぶこと～

田村 典子 著

東京大学出版会

愛玩動物として日本に持ち込まれ、その後、野生動物として暮らすようになったクリハラリスは、どんな動物なのか？ クリハラリスを追い続けた研究者が、生態や行動を解説するとともに、野生動物との共存への道を考察する。

2025.8./ 192p
978-4-13-063965-1

¥3,300〔税込〕



毎日新聞 2026/01/24



正しすぎた人～広岡達朗がスワローズで見た夢～

長谷川 晶一 著

文藝春秋

1978年、ヤクルトスワローズが叶えた「奇跡の日本一」。“冷酷な監督”は優勝未経験の弱小球団をどう変えたのか。一瞬の栄光と崩壊、そして広岡達朗の今に迫る。

2025.12./ 325p
978-4-16-392053-5

¥2,090〔税込〕



毎日新聞 2026/01/24



光と糸

ハン・ガン 著

河出書房新社

傷と痛みと回復の過程を描き、人の尊厳のありかを示す作家ハン・ガン。ノーベル文学賞受賞記念講演、エッセイ、詩、日記、写真を著者自ら編んだ、命と光をめぐる祈りのメッセージ。

2025.12./ 210p
978-4-309-20941-8

¥2,200〔税込〕



毎日新聞 2026/01/24



闇の奥～頹廃する権力とメディア、そして仄かな光をめぐるルポ・時評集～

青木 理 著

河出書房新社

政治、警察、検察、そして報道の腐蝕の深部を白日の下に晒せ！ 大川原化工機冤罪事件を先駆的に暴いた「闘うジャーナリスト」が、現代の権力構造の深奥をえぐり出す。

2025.10./ 236p
978-4-309-23173-0

¥2,200〔税込〕



毎日新聞 2026/01/24



小村雪岱デザイン大鑑

山田俊幸／永山多貴子 著

国書刊行会

泉鏡花本をはじめ、数多くの装幀・挿絵を彩った大正のデザイナー・小村雪岱。その独自の世界観を色彩・線描・構図・ディテールから徹底分析し、「雪岱デザイン」の成立と手法を体系化する。観音開きのページあり。

毎日新聞 2026/01/24

2025:12./ 207p
978-4-336-06253-6

¥5,940〔税込〕



コルシア書店の仲間たち〜須賀敦子コレクション〜(白水Uブックス)

須賀 敦子 著

白水社

ミラノの大聖堂に近いコルシア書店に集う、心やさしくも真摯な生き方にこだわる人々とのふれあいをつづる魂のエッセイ。それぞれの人の描写の上に、著者の好奇心、想像力、鋭い視覚・聴覚が息づく。92年文芸春秋刊の再刊。

毎日新聞 2026/01/24

2001:10./ 234p
978-4-560-07353-7

¥1,045〔税込〕



シロくんとパレスチナの猫

高橋美香 著

かもがわ出版

写真家・高橋美香が保護し、ともに暮らしている猫のシロをストーリーテラーに、パレスチナの難民キャンプで出会った猫たちを描く。猫たちの姿をとおして、パレスチナの人たちが置かれ続けている占領の現実を伝える写真絵本。

毎日新聞 2026/01/24

2025:12./ 40p
978-4-7803-1403-8

¥1,980〔税込〕



「手仕事」ルネサンス〜土から衣まで〜

三砂 ちづる 編

石垣昭子／三砂ちづる 著

藤原書店

“芸術を生き、伝統を生きる”染織家、石垣昭子。芭蕉や絹の交布、八重山の気候にあう日常の長衣「スディナ」、島の祭りの衣装…。「手仕事」の喜びを貫いてきたその半生を語る。

毎日新聞 2026/01/24

2025:11./ 257p
978-4-86578-479-4

¥2,860〔税込〕



2人は翻訳している

すんみ、小山内 園子 著

タバブックス

話題の韓国文学の翻訳を次々手掛けるすんみと、小山内園子。気鋭の韓日翻訳者2人が、翻訳のために日々行っていること、ことばを生み出す背景を、それぞれの視点から綴る。『マガジン tb』連載を大幅に加筆修正。

毎日新聞 2026/01/24

2025:11./ 163p
978-4-907053-78-9

¥1,980〔税込〕





中高年シングル女性～ひとりで暮らすわたしたちのこと～(岩波新書 新赤版 2093)

和田 静香 著
岩波書店

あらゆる社会保障や支援の狭間にこぼれ落ちてしまう、「透明」な存在と化した中高年シングル女性。仕事や住まい、お金の悩みから、老後の不安、人間関係まで、多くの当事者女性たちの声とリアルを伝える。

毎日新聞 2026/01/31

2025:12./ 250p
978-4-00-432093-7

¥1,056〔税込〕



ロードス島戦記<1> 灰色の魔女(角川スニーカー文庫 み-1-1-1)

水野 良 著
KADOKAWA

呪われた島ロードスで大きな戦争が始まろうとしていた。武者修行の旅に出たパーンは、エルフのディードリット、魔術師スレインらと試練を乗り越えていく。そして戦争を操る魔女の存在を知るが…。名作ファンタジーを大幅加筆。

毎日新聞 2026/01/31

2013:10./ 351p
978-4-04-101062-4

¥792〔税込〕



終止符には早すぎる(新潮文庫 フ-66-1)

ジャドスン・フィリップス、矢口誠 著
新潮社

ニューヨークの夜、アパートメントビルのテラスから若い娘が飛び降りようとしている。警官らの説得にも関わらず、彼女の決意は固かった。そこへ、殺人事件で容疑をかけられ姿を消していた富豪投資家が現れ、彼女に近づいて…。

毎日新聞 2026/01/31

2025:12./ 382p
978-4-10-241141-4

¥880〔税込〕



日本人の幸せ～ウェルビーイングの国際比較～(中公新書 2887)

内田 由紀子 著
中央公論新社

文化によって異なる「幸せの基準」。国際比較を通して日本社会における幸せの特徴を探るとともに、地域コミュニティ、職場、学校などの現場における持続的な幸福(ウェルビーイング)についても考察する。

毎日新聞 2026/01/31

2025:12./ 248p
978-4-12-102887-7

¥1,078〔税込〕



赤く染まる木々

パーシヴァル・エヴェレット／上野元美 著
早川書房

白人男性の変死体のそばには、半世紀以上前に殺された黒人の少年エメット・ティルに酷似した「第二の死体」があった。やがて同様の事件が全米を覆いつくし…。アメリカが葬った黒人リンチの過去に挑むミステリ。

毎日新聞 2026/01/31

2025:12./ 447p
978-4-15-210484-7

¥3,960〔税込〕





順風満帆

波木銅 著

文藝春秋

「万事快調(オール・グリーンズ)」のスピノフ短篇「順風満帆」、「ラッキーパンチ・ドランカー」など全 5 篇を収録する“劇薬”小説集。『オール読物』掲載などに書き下ろしを加え書籍化。

毎日新聞 2026/01/31

2025:12./ 253p
978-4-16-392050-4

¥1,760〔税込〕



江戸の刑事司法〜「御仕置例類集」を読みとく〜(ちくま新書 1885)

和仁かや 著

筑摩書房

物の怪憑きに責任能力はあるの？放火と失火ではどのくらい罪の重さが違う？江戸幕府の役人たちの議論を記録した「御仕置例類集」から 5 つの事件を取り上げ、それらを題材に江戸時代の法的思考を解き明かす。

毎日新聞 2026/01/31

2025:11./ 186p
978-4-480-07718-9

¥990〔税込〕



城下町江戸の町人地〜制度・仕組・構造〜

山慶子 著

原書房

近世最大の城下町江戸の商人や職人の居住区であった町人地。江戸の都市域の 15% ほどを占め、50 万人を超える人びとが暮らしていた町人地について、豊富な史料に基づき、制度や仕組、構造の特徴を明らかにする。

毎日新聞 2026/01/31

2025:12./ 312p
978-4-562-07651-2

¥3,960〔税込〕



末世の芸術〜来たるべき無人類のために〜

榎木野衣 著

美術出版社

2011 年以降、世界は芸術にとって末世の段階に突入した。グローバル化した世界を前提とする今日のアートに疑義を投げかけ、日本の美術を新たな視点で立ち上げ直そうとする試みの軌跡。『ART IT』連載を書籍化。

毎日新聞 2026/01/31

2025:12./ 725p
978-4-568-10593-3

¥5,830〔税込〕



剣闘士と社会〜帝政前期ローマにおける剣闘士競技の力学〜(山川歴史モノグラフ 50)

阿部 衛 著

山川出版社

ローマ帝国の歴史のなかでも平和と安定の時代と考えられている帝政前期における剣闘士競技を、奴隷、上層民などの諸階層がどのように利用していたのかを分析。その社会的意義について、剣闘士という存在に着目して考察する。

毎日新聞 2026/01/31

2025:11./ 304p
978-4-634-67399-1

¥6,600〔税込〕





チュコトカ始まりの旅～ユーラシア大陸最東端へ～

後藤 悠樹 著

柏書房

1996 年夏、チュコトカへの旅で、星野道夫は先住民の家族と出会う。2016 年夏、ひとりの写真家が、星野の遺した 1 枚の家族写真を手にチュコトカへ…。かの地に生きる人々や自然を、写真と日誌で記録にとどめた一冊。

毎日新聞 2026/01/31

2026:1./ 127p
978-4-7601-5651-1

¥2,200〔税込〕



難読漢字ときあかし辞典

円満字 二郎 著

研究社

日常生活で出会う可能性がある難読語を中心に 3057 語を五十音順に収録し、どうしてそう読むのかをていねいにわかりやすく説明する。あわせて知っておくと理解が深まる関連語にも言及。漢字索引、分類索引付き。

毎日新聞 2026/01/31

2025:10./ 576p
978-4-7674-5026-1

¥2,860〔税込〕



スポーツ・クリティーク

町田 樹 著

世界思想社

元アスリート、現研究者として実践知と学問知を兼ね備える著者が、複眼的視座を駆使して現代スポーツに対する批評を模索し実践する。『毎日新聞』連載「今を生きる、今を書く」を中心に再編成し加筆修正。

毎日新聞 2026/01/31

2026:1./ 221p
978-4-7907-1805-5

¥2,200〔税込〕

